3.1.5　動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

（1） 動物（陸域）

① 収集資料

事業実施想定区域及びその周囲における動物の生息状況は、表 3.1.35及び表 3.1.36に示す文献及びその他の資料を収集して把握した。

事業実施想定区域及びその周囲の動物相の概況は、表 3.1.37に示すとおりである。

哺乳類が7目14科29種、鳥類が18目49科202種、爬虫類が2目6科12種、両生類が2目6科15種、淡水魚類が11目34科84種、昆虫類が17目230科1886種、底生生物が27目112科282種確認されている。

表 3.1.35（1）　収集した既存資料一覧（陸上生物・動物）

文献No.	文献名	調査項目							備考（対象範囲）
		哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	淡水魚類	昆虫類	底生動物	
1	第2回動植物分布調査-自然環境web-GIS-（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）	○					○		573923、573913、573912、573902、573901、573903
2	第4回動植物分布調査-自然環境web-GIS-（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）	○		○	○	○	○	○	573923、573913、573912、573902、573901、573903
3	第5回動植物分布調査-自然環境web-GIS-（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）	○			○	○	○	○	573923、573913、573912、573902、573901、573903
4	第6回動植物分布調査-自然環境web-GIS-（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）	○							573923、573913、573912、573902、573901、573903
5	第7回自然環境保全基礎調査生物多様性調査種の多様性調査（新潟県）報告書（2008年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）	○							村上市、胎内市、新発田市、聖籠町
6	新潟県第2次レッドリスト淡水魚類・大型水生甲殻類編（2015年10月、新潟県）							○	岩船、北浦
7	新潟県第2次レッドリスト鳥類編（2014年12月、新潟県）		○						岩船、北浦
8	新潟県第2次レッドリスト陸・淡水産貝類、淡水産プラナリア類編（2021年3月、新潟県）							○	岩船、北浦
9	新潟県第2次レッドリスト（両生類・爬虫類編）（2016年12月、新潟県）				○				岩船、北浦
10	村上市農村環境計画（2011年3月、村上市農林水産課）	○	○		○	○	○		村上市
11	胎内市都市計画マスタープラン（まちづくり基本計画）概要版（2011年3月、胎内市）		○						胎内市
12	新発田市環境基本計画（第2次）【平成28年度▸平成37年度】（2016年4月、新発田市）	○	○		○	○	○	○	新発田市
13	第2次村上市環境基本計画第7章資料編（2021年3月、村上市）	○	○	○	○	○	○	○	村上市
14	第2次胎内市環境基本計画2021▸2030（2021年3月、胎内市）	○	○		○	○	○	○	胎内市
15	第2次胎内市総合計画平成29年度▸平成38年度（2017年3月、胎内市）	○							胎内市

表 3.1.35（2）　収集した既存資料一覧（陸上生物・動物）

文献No.	文献名	調査項目							備考（対象範囲）
		哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	淡水魚類	昆虫類	底生動物	
16	村上市環境基本計画平成23年度～平成32年度第2章環境の現状と課題（2011年3月、村上市）	○	○			○	○	○	村上市
17	生物多様性保全上重要な里地里山（2022年3月時点、環境省）		○			○			胎内市
18	青い空、豊かな大地、ふるさとの自然を未来へ聖籠町環境基本計画（2018年3月、聖籠町）		○			○	○		聖籠町
19	胎内市鳥獣被害防止計画（2021年、胎内市）	○							胎内市
20	飯豊山系のいきもの～水と緑の渓流づくり調査～（2022年3月時点、国土交通省北陸地方整備局飯豊山系砂防事務所）	○	○	○	○	○	○	○	飯豊山系
21	風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（2015年10月、イー・アンド・イーソリューションズ株式会社）	○	○	○	○	○	○		村上市、胎内市
22	平成30年度(2018年度)中大型哺乳類分布調査.調査報告書（2019年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）	○							村上市、新発田市
23	令和2年度第1回村上市環境審議会資料1基礎調査報告書概要版（2020年9月、村上市）	○			○	○	○	○	村上市
24	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査平成23年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）
25	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査平成24年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）
26	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査平成25年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）
27	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査平成26年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）
28	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査平成27年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）
29	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査平成28年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）
30	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査平成29年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）
31	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査平成30年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）
32	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査令和1年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）
33	モニタリングサイト1000ガンカモ類の生息調査令和2年度（2022年3月時点、環境省生物多様性センター）		○						15万分の1図郭範囲内（北新保大池）

表 3.1.35（3）　収集した既存資料一覧（陸上生物・動物）

文献No.	文献名	調査項目							備考（対象範囲）
		哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	淡水魚類	昆虫類	底生動物	
34	レッドデータブックにいがた-新潟県の保護上重要な野生生物-（2001年3月、新潟県）	○	○	○	○	○	○	○	岩船、北浦
35	越後平野の淡水カメ類･･･生息実態と保護管理について（2017年、生物多様性保全ネットワーク新潟）			○					新発田市、胎内市
36	加治川ネット21会報誌カジカの学君（2004年6月、特定非営利活動法人加治川ネット21）					○			新発田市
37	河川環境データベース河川水辺の国勢調査北陸河川版（2022年3月時点、国土交通省）	○	○	○	○	○	○	○	荒川河口から7km付近
38	海鳥コロニーデータベース（2022年3月時点、環境省）		○						村上市、胎内市、新発田市、聖籠町
39	荒川たんぽに生息するトミヨの保全・再生方針の検討（2013年、株式会社東京建築コンサルタント）					○			荒川下流
40	荒川の「たんぽ」再生効果と地域における活用について（2022年3月時点、国土交通省北陸地方整備局羽越河川国道事務所）		○		○	○	○	○	荒川
41	三面川水系河川整備基本方針（2009年1月、新潟県）		○			○		○	三面川
42	新潟海岸の生きもの（2022年3月時点、国土交通省北陸地方整備局信濃川下流河川事務所）		○						新潟海岸
43	新潟県の直翅目昆虫目録（2005年3月、新潟青陵大学紀要第5号）						○		村上市、胎内市、新発田市、聖籠町
44	新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里機関紙シジュウカラ第98号（2021年6月、新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里）	○	○						新発田市
45	新潟県産淡水魚類目録（2020年7月、生物多様性保全ネットワーク新潟）					○			胎内市
46	新潟県生物多様性地域計画2017-2028（2022年3月、新潟県県民生活・環境部環境企画課）		○			○	○		村上市、胎内市、新発田市、聖籠町
47	カモ科鳥類生息状況調査書にみるお幕場大池（新潟県村上市）の渡来鳥類の個体数変動（2018年、新潟県生物教育研究会誌第51号:1-6）		○						お幕場大池
48	にいがたのさかな100選（2022年3月24日、新潟県）					○		○	県内河川、水田
49	マリーンIBA白書海鳥から見た日本の重要海域（2016年8月、公益財団法人日本野鳥の会）		○						飛島、御積島
50	新潟県北部における有尾両生類相（1984年3月、研究報告/新潟県立教育センター68巻:43-46）				○				村上市、胎内市、新発田市、聖籠町
51	トキ野生復帰の取組評価（2021年7月、環境省）		○						村上市、胎内市、新発田市、聖籠町

表 3.1.36　収集した既存資料一覧（陸上生物・生息地）

文献No.	文献名	調査項目	備考
52	新潟県の文化財一覧（2022年4月時点、新潟県）	繁殖地等	事業実施想定区域及びその周囲
53	ラムサール条約と条約湿地（2022年4月時点、環境省）	繁殖地等	事業実施想定区域及びその周囲
54	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（2002年、法律第88号）		事業実施想定区域及びその周囲
55	重要野鳥生息地（IBA）（2022年4月時点、公益財団法人日本野鳥の会）	繁殖地等	事業実施想定区域及びその周囲
56	マリーンIBA（海鳥の重要生息地）（2022年4月時点、公益財団法人日本野鳥の会）	繁殖地等	事業実施想定区域及びその周囲
57	KBA（生物多様性保全の鍵になる重要な地域）～私たちが残したい未来の自然～（2022年4月時点、コンサベーション・インターナショナル・ジャパン）	繁殖地等	事業実施想定区域及びその周囲
58	生物多様性の観点から重要度の高い湿地（2022年4月時点、環境省）	繁殖地等	事業実施想定区域及びその周囲
59	自然公園法（昭和60年、法律第161号）（2022年4月時点、国土交通省国土数値情報）		事業実施想定区域及びその周囲
60	自然保全地域（2022年4月時点、環境省）		事業実施想定区域及びその周囲

表 3.1.37　収集した既存資料に基づく動物相の概況

分類群	確認種数	主な確認種
哺乳類	7目14科29種	ホンシュウジネズミ、カワネズミ、ホンシュウヒミズ、エチゴモグラ、アズマモグラ、アブラコウモリ、モリアブラコウモリ、ホンドザル、トウホクノウサギ、アナウサギ、ニホンリス、ムササビ、スミスネズミ、ハタネズミ、ホンドヒメネズミ、ホンドアカネズミ、ハツカネズミ、ツキノワグマ、ホンドタヌキ、ホンドキツネ、ホンドテン、オコジョ、ホンドオコジョ、ホンドイタチ、ニホンアナグマ、ハクビシン、ニホンイノシシ、ホンシュウジカ、カモシカ
鳥類	18目49科202種	キジ、オオヒシクイ、ヒシクイ、マガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、オシドリ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、シノリガモ、ホオジロガモ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、トキ、カッコウ、イカルチドリ、シロチドリ、オオジシギ、イソシギ、ウミネコ、コアジサシ、ミサゴ、ハチクマ、トビ、オジロワシ、オオワシ、チュウヒ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、イヌワシ、クマタカ、オオコノハズク、アカショウビン、カワセミ、ハヤブサ、サンコウチョウ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、コヨシキリ、ミソサザイ、ツグミ、イソヒヨドリ、コサメビタキ、オオルリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等
爬虫類	2目6科12種	クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシッピアカミミガメ、ニホンスッポン、ニホンカナヘビ、シロマダラ、ジムグリ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
両生類	2目6科15種	クロサンショウウオ、トウホクサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、バンダイハコネサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ウシガエル、ツチガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル
淡水魚類	11目33科84種	スナヤツメ類、ニホンウナギ、キタノアカヒレタビラ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、コイ、タモロコ、ニゴイ、オイカワ、マルタ、ウグイ、カマツカ属、モツゴ、シナイモツゴ、タイリクバラタナゴ、アブラハヤ、コウライモロコ、ヤリタナゴ、ヒガシシマドジョウ、ドジョウ、キタドジョウ、フクドジョウ、ホトケドジョウ、ギギ、ナマズ、アカザ、ワカサギ、アユ、サケ、サツキマス・アマゴ、サクラマス・ヤマメ、ニジマス、ニッコウイワナ、ニホンイトヨ、トミヨ属淡水型、ボラ、メナダ、キタノメダカ、サヨリ、ハオコゼ、イネゴチ、カジカ、ウツセミカジカ、カジカ中卵型、カマキリ（アユカケ）、スズキ、ブルーギル、オオクチバス、ヒイラギ、カワアナゴ、マハゼ、アシシロハゼ、ヒメハゼ、ビリンゴ、ジュズカケハゼ、シマウキゴリ、スミウキゴリ、ウキゴリ、シロウオ、ミミズハゼ、イソミミズハゼ、クロヨシノボリ、オオヨシノボリ、クロダハゼ、シマヨシノボリ、ゴクラクハゼ、トウヨシノボリ、ヌマチチブ、チチブ等
昆虫類	17目230科1886種	オオクサキリ、カヤキリ、アカハネバッタ、アカエゾゼミ、ハルゼミ、ババオオヨコバイ、コリヤナギグンバイ、ズイムシハナカメムシ、シロヘリツチカメムシ、オオキンカメムシ、イトアメンボ、コオイムシ、タガメ、コバンムシ、ハイイロボクトウ、ホソバセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、チョウセンアカシジミ、オオゴマシジミ、ミヤマシジミ、ヒカゲチョウ、コジャノメ、オオミスジ、オオムラサキ、ギフチョウ、スキバホウジャク、キハダカノコ、ハマヤガ、ヤヒコカラスヨトウ、アリスアトキリゴミムシ、エチゴトックリゴミムシ、ハラビロハンミョウ、カワラハンミョウ、アイヌハンミョウ、オオクワガタ、アラメエンマコガネ、オオチャイロハナムグリ、セマルヒメドロムシ、アカツヤドロムシ、ヨコヤマヒゲナガカミキリ、クロホソコバネカミキリ、オオルリハムシ、キンイロネクイハムシ、オオセイボウ、トゲアリ、モンスズメバチ、ニトベギングチ、ヤマトスナハキバチ本土亜種、キアシハナダカバチモドキ、ヤスマツヒメハナバチ等
底生生物	27目112科282種	ナミウズムシ、イシマキガイ、マルタニシ、オオタニシ、カワニナ、コシダカヒメモノアラガイ、ヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ドブガイ、イシガイ科、ヤマトシジミ、マシジミ、ニホンマメシジミ、ヒメイトミミズ、ヘラヒメイトミミズ、フクロイトミミズ、エラオイミズミミズ、エラミミズ、ヒラタビル、ヌマビル、アタマビル、ツクバビル、キスイタナイス、ニホンオカトビムシ、ミゾレヌマエビ、ヌカエビ、テナガエビ、スジエビ、エビジャコ、アメリカザリガニ、サワガニ、クロベンケイガニ、アカテガニ、モクズガニ、アリアケモドキ、ヒメトビイロカゲロウ、トゲトビイロカゲロウ、ウェストントビイロカゲロウ、フタバカゲロウ、セスジイトトンボ、ハグロトンボ、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、ミヤマサナエ、ダビドサナエ、、コオニヤンマ、コヤマトンボ、ショウジョウトンボ、コフキトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、マユタテアカネ、ミヤマアカネ、フタスジクサカワゲラ、アサカワヒメカワゲラ、コグサヒメカワゲラ、アメンボ、ヒメアメンボ、シマアメンボ、ナガレカタビロアメンボ、コチビミズムシ、ミズカマキリ、ヒメミズカマキリ、ナベブタムシ、マツモムシ、タイリククロスジヘビトンボ等

資料：表 3.1.35および表 3.1.36の出典に基づき作成

② 陸上生物の重要な種の選定基準

陸上生物の重要な種の選定は、各種文献等において確認された種を対象として、表3.1.38に示す選定基準に基づいて行った。また、注目すべき生息地の選定については表3.1.39に示す選定基準に基づいて行った。

表 3.1.38 陸上生物の重要な種の選定基準

文献No.	選定基準	カテゴリー	
Ⅰ	「文化財保護法」（1950年、法律第214号）	・特別天然記念物	（国特天）
		・天然記念物	（国天）
	「新潟県文化財保護条例」（1973年、条例第33号）	・新潟県天然記念物	（県天）
	「村上市文化財保護条例」（2008年、条例第116号）	・村上市天然記念物	（村天）
	「胎内市文化財保護条例」（2005年、条例第108号）	・胎内市天然記念物	（胎天）
	「新発田市文化財保護条例」（1971年、条例第37号）	・新発田市天然記念物	（新天）
	「聖籠町文化財保護条例」（1975年、条例第20号）	・聖籠町天然記念物	（聖天）
Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992年、法律第75号）	・国内希少野生動植物種	（国内）
		・国際希少野生動植物種	（国際）
Ⅲ	「環境省レッドリスト2020」（2020年、環境省自然環境局野生生物課）	・絶滅	（EX）
		・野生絶滅	（EW）
		・絶滅危惧Ⅰ類	（CR+EN）
		・絶滅危惧ⅠA類	（CR）
		・絶滅危惧ⅠB類	（EN）
		・絶滅危惧Ⅱ類	（VU）
		・準絶滅危惧	（NT）
		・情報不足	（DD）
		・絶滅のおそれのある地域個体群	（LP）
Ⅳ	「新潟県第2次レッドリスト」（2014-2019年、新潟県）	・絶滅	（EX）
		・野生絶滅	（EW）
		・絶滅危惧Ⅰ類	（EN）
		・絶滅危惧Ⅱ類	（VU）
		・準絶滅危惧	（NT）
		・保護に留意すべき地域個体群	（LP）
Ⅴ	「新潟県希少野生動植物保護条例」（2022年、条例第8号）	・指定希少野生動植物	（希少）

表 3.1.39　注目すべき生息地の選定基準

文献 No.	選定基準	カテゴリー（カッコ内は略号）	
Ⅰ	「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号）	特別天然記念物	（国特天）
		天然記念物	（国天）
	「新潟県文化財保護条例」（昭和 48 年、条例第 33 号）	新潟県天然記念物	（県天）
	「村上市文化財保護条例」（平成 20 年、条例第 116 号）	村上市天然記念物	（村天）
	「胎内市文化財保護条例」（平成 17 年、条例第 108 号）	胎内市天然記念物	（胎天）
	「新発田市文化財保護条例」（昭和 46 年、条例第 37 号）	新発田市天然記念物	（新天）
	「聖籠町文化財保護条例」（昭和 50 年、条例第 20 号）	聖籠町天然記念物	（聖天）
Ⅱ	日本のラムサール条約湿地（2001 年、環境省）	ラムサール条約登録湿地	（指定）
Ⅲ	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（2002 年、法律第 88 号）	鳥獣保護区（A）	（A）
		特別保護地区（B）	（B）
Ⅳ	重要野鳥生息地（IBA）（2022 年 4 月時点、公益財団法人日本野鳥の会）	重要野鳥生息地（IBA）	（指定）
Ⅴ	マリーン IBA(海鳥の重要生息地)（2022 年 4 月時点、公益財団法人日本野鳥の会）	マリーン IBA（海鳥の重要生息地）	（指定）
Ⅵ	KBA（生物多様性保全の鍵になる重要な地域）～私たちが残したい未来の自然～（2022 年 4 月時点、コンサベーション・インターナショナル・ジャパン）	KBA（生物多様性保全の鍵になる重要な地域）	（指定）
Ⅶ	生物多様性の観点から重要度の高い湿地（2022 年 4 月時点、環境省）	重要湿地	（指定）
Ⅷ	生物多様性の観点から重要度の高い海域（2022 年 4 月時点、環境省）	沖合表層域	（沖表）
		沿岸域	（沿岸）
		沖合海底域	（沖底）
Ⅸ	自然公園法（昭和 60 年、法律第 161 号）（2022 年 4 月時点、国土交通省国土数値情報）	自然公園特別保護地区	（特保）
		自然公園特別地域	（特別）
		自然公園地域	（地域）
Ⅹ	自然保全地域（2022 年 4 月時点、環境省）	原生自然環境保全地域	（原生）
		自然環境保全地域	（自然）
		沖合海底自然環境保全地域	（沖合）
		都道府県自然環境保全地域	（都保）

③　哺乳類

哺乳類に係る重要種は表 3.1.40に示すとおりであり、環境省レッドリストに掲載されているエチゴモグラやモリアブラコウモリなど4目6科6種が確認されている。

表 3.1.40　哺乳類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	モグラ	トガリネズミ	カワネズミ				NT	
2		モグラ	エチゴモグラ			EN	VU	
3	コウモリ	ヒナコウモリ	モリアブラコウモリ			VU	VU	
4	ネコ	クマ	ツキノワグマ		国際			
5		イタチ	ホンドオコジョ			NT	NT	
6	ウシ	ウシ	カモシカ	国特天				
計	4目	6科	6種	1種	1種	3種	4種	0種

*1：種名及び順番は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和3年度生物リスト」（2021年、河川環境データベース　国土交通省水情報国土データ管理センター）に基づく。
資料：表 3.1.35の出典に基づき作成。

④　鳥類

鳥類に係る重要種は表 3.1.41に示すとおりであり、国の特別天然記念物に指定されるトキ、天然記念物に指定されるヒシクイをはじめとするガン類や国内希少野生動植物種のヘラシギやアカモズなど12目26科70種が確認されている。

表 3.1.41（1）　鳥類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	カモ	カモ	サカツラガン			DD	VU	
2			オオヒシクイ			NT	NT	
3			ヒシクイ	国天		VU	NT	
4			マガン	国天		NT	NT	
5			ハクガン			CR	VU	
6			シジュウカラガン		国内	CR	VU	
7			コクガン	国天		VU	NT	
8			オシドリ			DD	NT	
9			ヨシガモ				NT	
10			トモエガモ			VU	NT	
11			シノリガモ				NT	
12			ホオジロガモ				NT	
13	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ				NT	
14	カツオドリ	ウ	ヒメウ			EN	NT	
15			ウミウ				NT	
16	ペリカン	サギ	サンカノゴイ			EN	NT	
17			ヨシゴイ			NT	NT	
18			ミゾゴイ			VU	VU	
19			ササゴイ				NT	
20			チュウサギ			NT	NT	
21			コサギ				NT	
22			クロサギ				NT	
23		トキ	トキ	国特天	国内	CR	EN	
24	ツル	クイナ	ヒクイナ			NT	EN	

表 3.1.41（2）　鳥類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
25	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	NT	
26	チドリ	チドリ	ケリ			DD	NT	
27	チドリ	チドリ	イカルチドリ				NT	
28			シロチドリ			VU	NT	
29			メダイチドリ		国際			
30		セイタカシギ	セイタカシギ			VU	NT	
31		シギ	オオジシギ			NT	VU	
32			オオソリハシシギ			VU	NT	
33			ホウロクシギ		国際	VU	NT	
34			ツルシギ			VU	NT	
35			タカブシギ			VU	NT	
36			イソシギ				NT	
37			ハマシギ			NT	NT	
38			ヘラシギ		国内	CR	VU	
39		ツバメチドリ	ツバメチドリ			VU	NT	
40		カモメ	オオセグロカモメ			NT		
41			コアジサシ			VU	NT	
42		ウミスズメ	ウミスズメ			CR	NT	
43	タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	NT	
44		タカ	ハチクマ			NT	NT	
45			オジロワシ	国天	国内/国際	VU	EN	
46			オオワシ	国天	国内	VU	EN	
47			チュウヒ		国内	EN	NT	
48			ツミ				NT	
49			ハイタカ			NT	NT	
50			オオタカ			NT	NT	
51			サシバ			VU	NT	
52			イヌワシ	国天	国内	EN	EN	
53			クマタカ		国内	EN	EN	
54	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク				NT	
55			コノハズク				NT	
56			アオバズク				NT	
57	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン				NT	
58			ヤマセミ				NT	
59		ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	VU	
60	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	NT	
61	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	NT	
62		モズ	チゴモズ			CR	VU	
63			アカモズ		国内	EN	EN	
64		ツバメ	コシアカツバメ				NT	
65		ヨシキリ	コヨシキリ				NT	
66		キバシリ	キバシリ				NT	
67		ヒタキ	サメビタキ				NT	
68			コサメビタキ				NT	
69		ホオジロ	ノジコ			NT	NT	
70			コジュリン			VU	VU	
計	12目	26科	70種	7種	12種	48種	68種	0種

*1：種名及び順番は「日本鳥類目録　改訂第7版」（2012年、日本鳥学会）に基づく。
資料：表 3.1.35の出典に基づき作成。

「地理情報システム（GIS） センシティビティマップ」（環境アセスメントデータベースEADAS（イーダス）HP、閲覧：令和4年3月）によると、事業実施想定区域及びその周囲の陸域、海域における注意喚起レベルは表3.1.42及び図3.1.32のとおりである。

陸域の事業実施想定区域を含むメッシュは、「573923」、「573913」、「573912」、および「573902」となっており、このうち、「573923」が「注意喚起レベル A3」に該当し、その他は「情報なし」となっている。事業実施想定区域に隣接する周辺のメッシュでは、重要種「イヌワシ」と「クマタカ」の生息情報があり、最もレベルが高いメッシュで「573944」の「注意喚起レベルA1」となっている。

また、海域の事業実施想定区域を含むメッシュは、「573923」、「573922」、「573913」、「573912」、「573902」が該当し、このうち「573922」を除くメッシュが海鳥の洋上分布の観点から注意喚起レベル1となっている。

なお、注意喚起メッシュの作成方法は、「参考資料：「地理情報システム（GIS）：センシティビティマップについて」のとおりである。

表3.1.42（1） EADASセンシティビティマップ（注意喚起レベル：陸域）

二次メッシュ	注意喚起レベル	重要種	集団飛来地
573964	A3	イヌワシ、クマタカ	
573954	A3	イヌワシ、クマタカ	
573953	情報なし	-	
573944	A1	イヌワシ、クマタカ	ノスリ秋の渡り集結地
573943	情報なし	-	
573934	A3	イヌワシ、クマタカ	
573933	C	クマタカ	
573924	C	クマタカ	
573923	A3	-	ノスリ秋の渡り集結地、ハチクマ秋の渡りの集結地
573914	A3	イヌワシ、クマタカ	
573913	情報なし	-	
573912	情報なし	-	
573904	A3	イヌワシ、クマタカ	
573903	A3	クマタカ	ノスリ秋の渡りの集結地、ハチクマ秋の渡りの集結地
573902	情報なし	-	
573901	情報なし	-	
563974	A3	イヌワシ、クマタカ	
563973	A3	イヌワシ、クマタカ	
563972	A3	-	ハクチョウ類、鳥獣保護区（国指定）

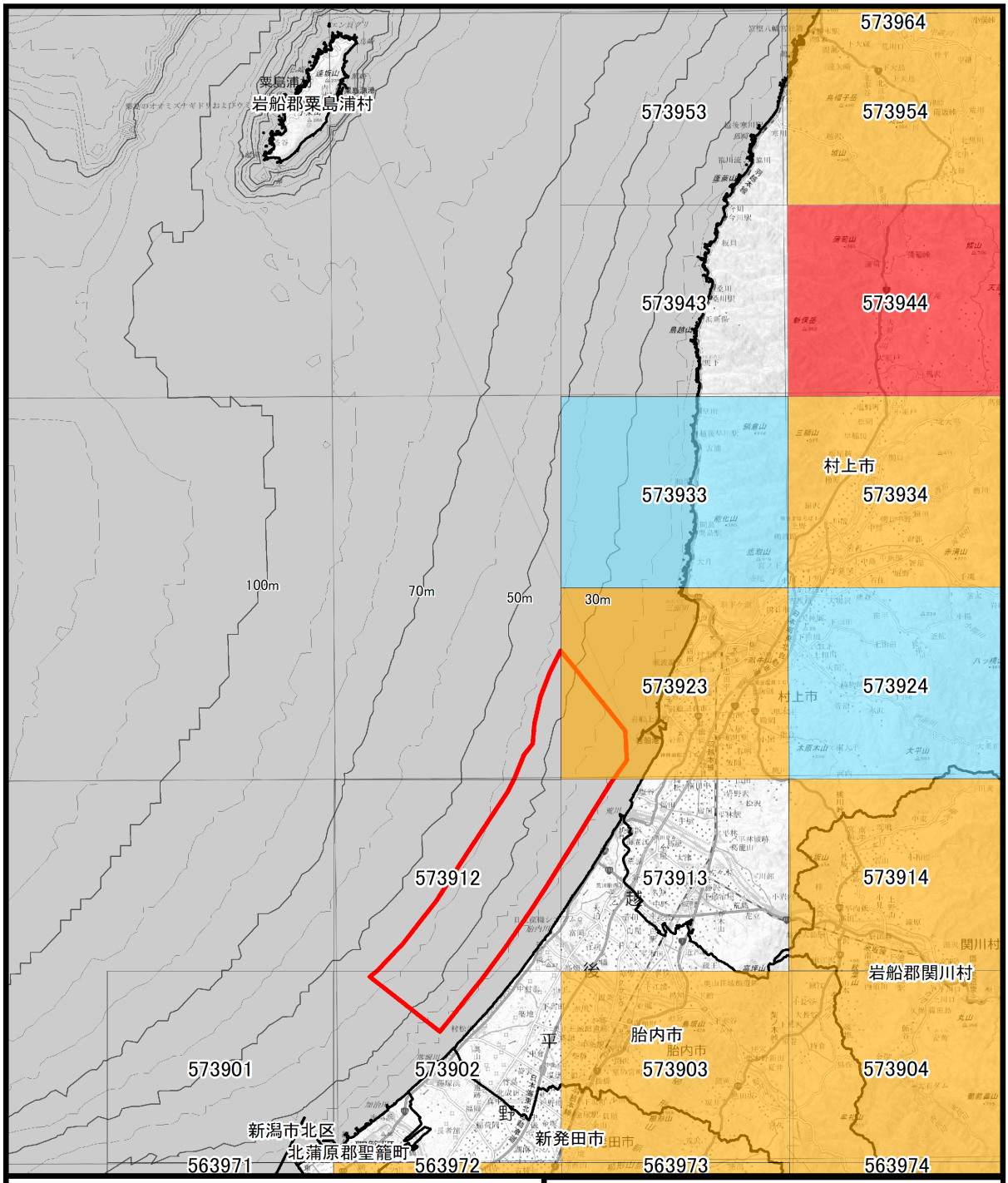
注：表中の二次メッシュは図3.1.32の番号と対応する。
「地理情報システム（GIS） センシティビティマップ」
（環境アセスメントデータベースEADAS（イーダスHP、
閲覧：令和4年3月） より作成

表3.1.42（2）　EADASセンシティビティマップ（注意喚起レベル：海域）

二次メッシュ	注意喚起レベル	保護区	海鳥の集団繁殖地	海鳥の洋上分布
573964	低	-	-	小型カモメ類の一種、ウミネコ、カモメ科の一種
573963	1	-	-	カモ科の一種、カモメ科の一種
573962	低	-	-	オオミズナギドリ、カモメ科の一種
573961	1	-	オオミズナギドリ、ウトウ	オオミズナギドリ、ウミネコ、カモメ科の一種
573960	2	-	-	オオミズナギドリ、ミズナギドリ科の一種、大型カモメ類の一種
573954	低	-	-	ウミネコ、カモメ科の一種
573953	低	-	-	カモ科の一種、オオミズナギドリ、ウミネコ、大型カモメ類の一種、カモメ科の一種
573952	1	-	オオミズナギドリ、ウトウ	-
573951	1	-	オオミズナギドリ、ウトウ	オオミズナギドリ、ウミネコ、カモメ科の一種
573950	1	-	-	オオミズナギドリ
573943	低	-	-	オオミズナギドリ、アオサギ、ウミネコ、大型カモメ類の一種
573942	低	-	-	オオミズナギドリ、ウミネコ
573941	低	-	-	カモメ科の一種
573940	低	-	-	オオミズナギドリ
573933	低	-	-	ウミネコ、カモメ科の一種
573932	低	-	-	オオミズナギドリ、ウミネコ
573931	低	-	-	
573930	2	-	-	オオミズナギドリ
573923	1	-	-	カモ科の一種、オオミズナギドリ、ウミネコ、カモメ科の一種
573922	低	-	-	
573921	低	-	-	カモメ科の一種
573920	低	-	-	オオミズナギドリ
573913	1	-	-	カモ科の一種
573912	1	-	-	ハクチョウ属の一種、マガモ、カモ科の一種、オオミズナギドリ、ウ科の一種、カモメ科の一種
573911	低	-	-	オオミズナギドリ
573910	低	-	-	
573902	1	-	-	ウ科の一種、ウミネコ、カモメ科の一種
573901	低	-	-	カモ科の一種、オオミズナギドリ、ミズナギドリ科の一種、ウミネコ、大型カモメ類の一種、カモメ科の一種
573900	低	-	-	
563971	1	-	-	カモ科の一種、ウ科の一種、ウミネコ、カモメ科の一種
563970	低	-	-	カモ科の一種、ウ科の一種、ウミネコ、カモメ科の一種

注：表中の二次メッシュは図 3.1.32 の番号と対応する。

（「地理情報システム（GIS） センシティビティマップ」
（環境アセスメントデータベース EADAS（イーダス HP、
閲覧：令和 4 年 3 月）　より作成）



凡　例

事業実施想定区域

行政界

等深線

センシティビティマップ
注意喚起メッシュ：陸域

注意喚起レベルA1

注意喚起レベルA3

注意喚起レベルC

情報なし

資料：「地理情報システム（GIS） センシティビティマップ」
（環境アセスメントデータベースEADAS HP）より作成

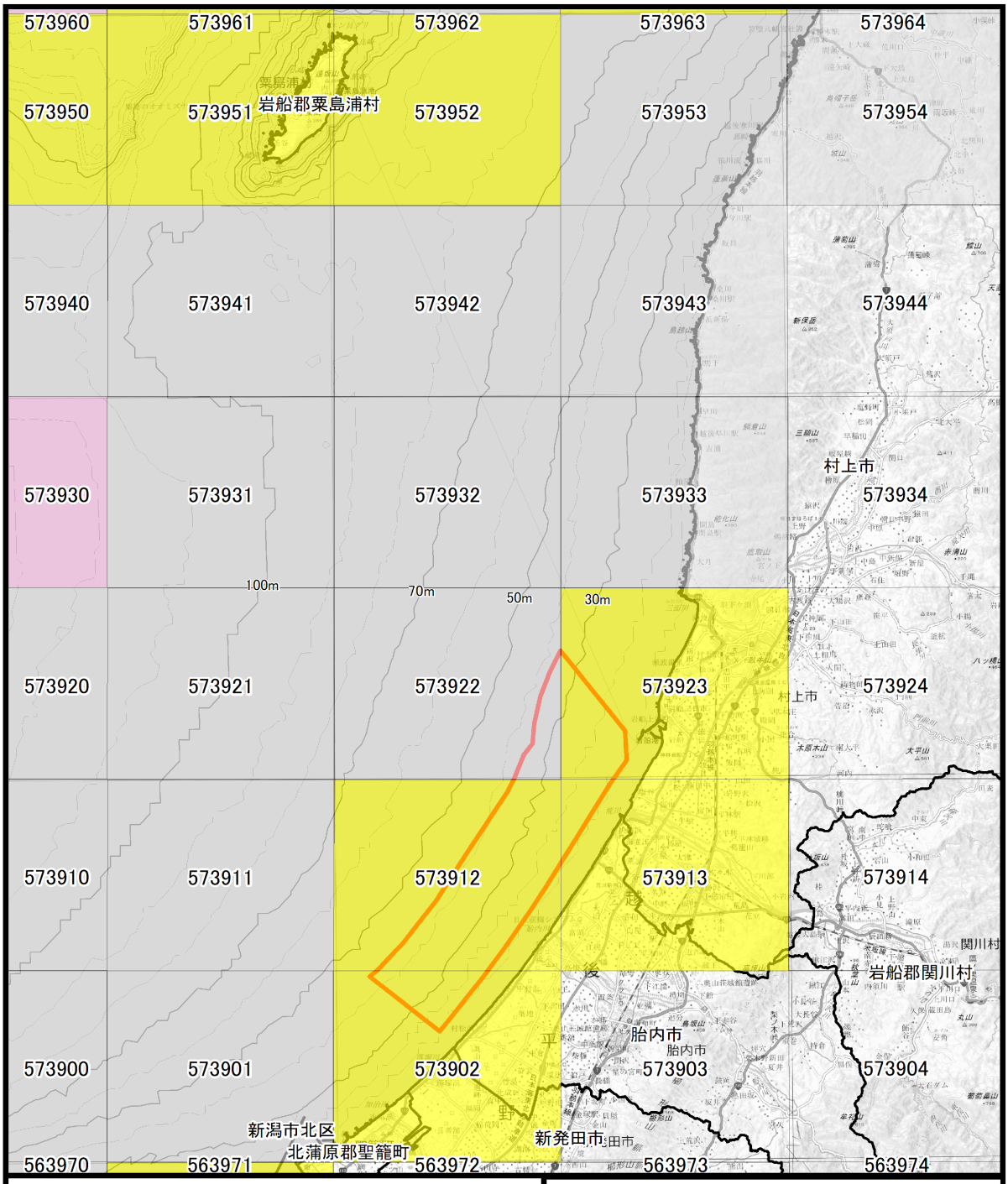
N
W
E
S

1:300,000

0 2 4 8 12

km

図 3.1.32（1）
EADASセンシティビティマップ
（注意喚起メッシュ：陸域）



資料：「地理情報システム（GIS） センシティビティマップ」
（環境アセスメントデータベースEADAS HP）より作成

図 3.1.32（2）
EADASセンシティビティマップ
（注意喚起メッシュ：海域）

参考資料：「地理情報システム（GIS）：センシティビティマップについて」（陸域版）

◆注意喚起メッシュの作成方法

【重要種】

まずバードストライクとの関連性が高い種や生息地の改変に鋭敏な種を10種選定し、それぞれ程度の高い方から3、2、1とランク付けを行いました。

重要種の選定は、はじめに環境省レッドリストから絶滅危惧種・野生絶滅種に記載されている98種を抽出しました。次に、生息環境と陸域風力の設置場所との関係、バードストライクの事例の有無、風車との関連性（McGuinness et al.2015）等から風力との関係が注目される重要種として10種を選定しました。このうち、「個体数が極小」、「個体数が少なく減少傾向」、「生息地が局所的で生息地の減少の影響が大きくかつ生息環境が特殊」のいずれかに該当するイヌワシ、シマフクロウ、チュウヒ、オオヨシゴイ、サンカノゴイをランク3とし、それ以外の種については、国内でのバードストライクの事例が多いオジロワシをランク2、事例が少ないもしくは関係が不明のクマタカ、オオワシ、タンチョウ、コウノトリをランク1としました。

最後に、重要種が分布している10kmメッシュにその重要種のランクを付け、10種のメッシュを重ね合わせました。同一メッシュに複数の重要種が分布する場合には、最も大きいランクをそのメッシュに付けました。

【集団飛来地】

集団飛来地については、ガン類、ハクチョウ類、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、ツル類（ナベヅル・マナヅル）、ウミネコの繁殖地、その他の水鳥類、海ワシ類及びその他の猛禽類を対象としました。水鳥類については、はじめにラムサール条約湿地に指定されている場所の個体数データ（モニタリングサイト1000調査）を基に、分類群ごとに個体数の基準を3、2、1とランク付けました（個体数の多いものはランクが高くなります）。

同様に、海ワシ類は「2016年のオオワシ・オジロワシ一斉調査結果について」（オジロワシ・オオワシ合同調査グループ,2016）の個体数データから、猛禽類は「平成27年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書,風力発電施設立地適正化のための手引きに関する資料」（環境省自然環境局野生生物課、2016）の個体数データから、個体数の基準をランク付けしました。

これらの基準を用いて、現地調査結果や文献による個体数データについて10kmメッシュごとにランクを付けました。

なお、集団飛来地のヒアリング調査結果の情報があるメッシュは一律ランク1を、集団飛来地に関連するラムサール条約湿地及び国指定鳥獣保護区は一律ランク3を付けています。

【重要種と集団飛来地の重ね合わせ】

最後に、メッシュごとに重要種と集団飛来地のランクを合計して、メッシュのランクを決定しました（図 3.1.33）。メッシュのランクに応じて、注意喚起レベルを決定しました（表3.1.43）。

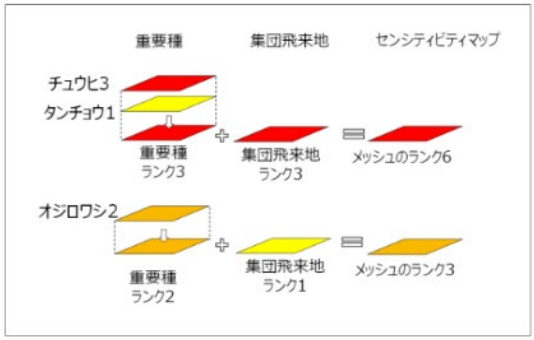


図 3.1.33　重要種と集団飛来地のメッシュの重ね合わせ

表3.1.43　メッシュのランクと注意喚起レベル

メッシュのランク	注意喚起レベル
6	A1
5	A2
3～4	A3
2	B
1	C
0	情報なし

「地理情報システム（GIS） センシティビティマップ」
（環境アセスメントデータベース EADAS（イーダス）HP、閲覧：令和４年３月）
より作成

参考資料：「地理情報システム（GIS）：センシティビティマップについて」（海域版）

◆注意喚起メッシュの作成方法

【保護区等】
保護区等は、国指定鳥獣保護区、ラムサール条約湿地及び希少な海鳥の集団繁殖地から作成しています。国指定鳥獣保護区は、集団繁殖地で指定されている全ての箇所、また集団渡来地で指定されている箇所のうち、沿岸部に位置するものを対象としました。また、ラムサール条約湿地も沿岸部に位置するものを対象としました。
国指定鳥獣保護区とラムサール条約湿地については、それらにかかる10kmメッシュは注意喚起レベル5としました。また、このメッシュの周辺のメッシュについては、注意喚起レベル4としました。
希少な海鳥の集団繁殖地は、主に海鳥の集団繁殖地のデータを用いました。このデータから、環境省レッドリスト2019でVU、EN及びCRと記載されている種の繁殖地を選び出しました。これらの繁殖地にかかるメッシュを注意喚起レベル4としました。

【海鳥の集団繁殖地】
海鳥の集団繁殖地では、まず、文献から集団繁殖地の位置、繁殖する海鳥種及びその個体数を収集しました。使用した主な文献は以下の2つです。

海鳥コロニーデータベース　（環境省自然環境局生物多様性センター, 2019年2月13日版）
平成19～30年度モニタリングサイト1000海鳥調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター, 平成20～31年）

これらのうち、過去20年（1999年～2019年）のデータを対象に、個体数や位置等が明確なものを選びました。また、海鳥種の採餌距離も文献[1]から収集しました。
次に、集団繁殖地を円の中心に採餌距離を半径として、円状の採餌範囲を種ごとに作成しました。繁殖地を利用する海鳥種はこの採餌範囲に一様に分布すると仮定し、10kmメッシュごとに個体数密度を算出しました。
一方、種類ごとの希少性や飛翔高度などから洋上風力発電との関連性を点数化したもの（種別スコア）を別途整理しました。個体数密度にこの種別スコアを乗じて、メッシュごとに点数を付けました。複数の種が同じメッシュに分布している場合は、種類ごとの点数を足し合わせることで、メッシュを点数化しました。こうして計算したメッシュの点数を6分割し、大きいほうから注意喚起レベル5～1及び低と評価しました。レベルが高い程、バードストライクや、風力発電が採餌海域に立地することによる鳥類への影響がより懸念されます。
種別スコアはCertain et al.（2015）[2]を参考とし、メッシュの点数化の算出は、Webb et al.（2016）[3]を参考としました。

【海鳥の洋上分布】
海鳥の洋上分布は、飛行機による海鳥の分布調査により情報を収集しました。これは、飛行機からの目視により海鳥の種や個体数を記録するものです。本調査は、北海道、本州、四国及び九州の主要四島の沿岸・沖合で実施しました。
調査結果は、まず種類ごとに10kmメッシュで個体数密度を集計します。そして、海鳥の集団繁殖地と同様に、種ごとの個体数密度に種別スコアを乗じて、メッシュごとに点数を付けました。複数の種が同じメッシュに分布している場合は、種類ごとの点数を足し合わせることで、メッシュを点数化しました。こうして計算したメッシュの点数を6分割し、大きい方から注意喚起レベル5～1及び低と評価しました。レベルが高い程、バードストライクや、風力発電が採餌海域に立地することによる影響がより懸念されます。
海鳥の洋上分布では、現地調査での確認種から特定の種を選定することはせず、全ての種を評価の対象としています。これは、希少種を含めて海域を利用している鳥類の生息状況や洋上風力発電との関連性の情報が少ないこと、また鳥類が集団で分布している海域はそれらの生息にとって重要と考えられることを理由としています。

【構成要素の重ね合わせ・注意喚起レベル・範囲】
風力発電における鳥類のセンシティビティマップ（海域版）の注意喚起メッシュは、保護区等、海鳥の集団繁殖地及び海鳥の洋上分布の構成要素のメッシュの3つの構成要素を重ね合わせて最大のレベルのメッシュを採用することで作成しました。
注意喚起メッシュは、注意喚起レベル5～1、注意喚起レベル低、情報なしの7つに分けました。注意喚起レベル5～1の海域は、バードストライク等の鳥類への影響が高い海域であり、レベルが高い程、バードストライクや、風力発電が採餌海域に立地することによる鳥類への影響がより懸念されます。
本マップの範囲は、3つの構成要素すべてが重なり合う範囲のみとしました。3つの構成要素すべてがそろっていないメッシュは、情報なしとしています。

1.主にFurness et al.（2012）Assessing the sensitivity of seabird populations to adverse effects from tidal stream turbines and wave energy devices.
2.Certain et al.（2015）Mapping the vulnerability of animal community to pressure in marine systems: disentangling pressure types and integrating their impact from the individual to the community level.
3.Webb et al.（2016）Sensitivity of offshore seabird concentrations to oil pollution around the United Kingdom: Report to Oil & Gas UK

〔「環境アセスメントデータベース（EADAS）」（環境省HP、閲覧：令和4年4月）より作成〕

「地理情報システム（GIS） センシティビティマップ」（環境アセスメントデータベースEADAS（イーダス）HP、閲覧：令和 4 年 4 月）による事業実施想定区域周辺における鳥類の渡りルートは、図 3.1.34 のとおりであり、日中の渡りルートとして、サシバ、ハチクマ、ノスリおよびその他の猛禽類が事業実施想定区域の東側の内陸を移動する渡りルートが存在する。また、水禽類（ガン・カモ類）日中の渡りルートとして、コハクチョウ、亜種オオヒシクイ、およびその他ガン類の渡りルートがあり、事業実施想定区域の近傍を通過している。

「平成 26 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」（環境省自然環境局、平成 27 年）による事業実施想定区域周辺のガン類・オオハクチョウの渡りルートは、図 3.1.40 のとおりであり、事業実施想定区域周辺に主な渡りルートはなく、山形県との県境付近を通過する渡りルートが存在する。

このほか、「地理情報システム（GIS） センシティビティマップ」（環境アセスメントデータベースEADAS（イーダス）HP、閲覧：令和4年4月）によると、図 3.1.44と図 3.1.45のとおり、事業実施想定区域の周囲において、イヌワシとクマタカの生息が確認されている。

特別天然記念物のトキは、国内希少野生動植物種、環境省RL 絶滅危惧IA類（CR）、新潟県RL絶滅危惧I類（EN）にも指定されている。

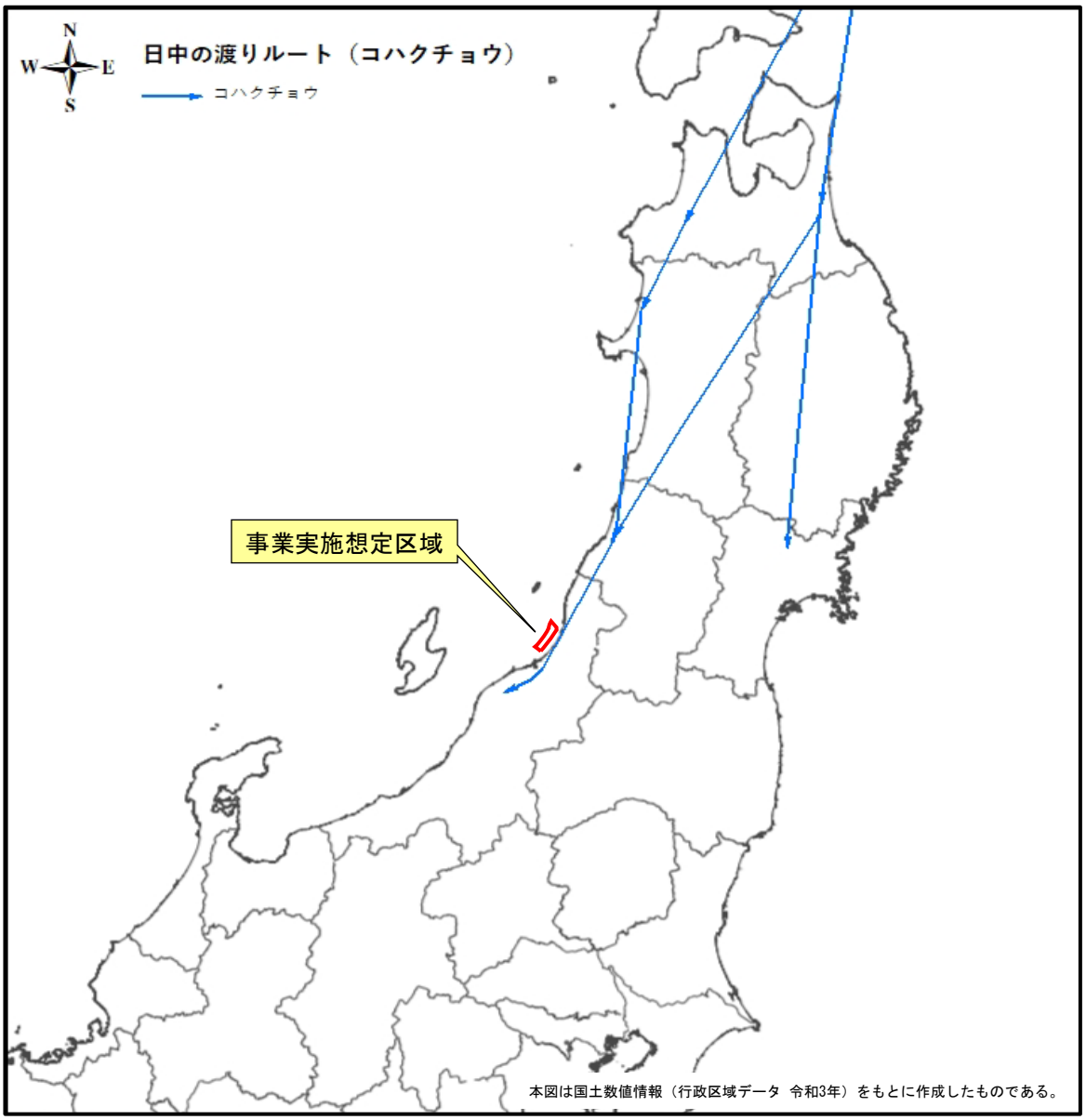
トキは明治期に乱獲で激減し、明治41（1908）年に狩猟法における保護鳥、昭和9（1934）年に国の天然記念物に指定され、保護活動が行われてきた。その後も減少の一途をたどり、新潟県佐渡島にて昭和56（1981）年に野生のトキを全鳥捕獲し、飼育下におき人工増殖が試みられたが成功せず、平成15年（2003）年に日本産トキは絶滅した。しかし平成11（1999）年から中国産トキの人工ふ化事業を開始しており、平成20（2008）年より新潟県佐渡島において野生復帰を開始した。平成31（2019）年には環境省RLの野生絶滅（EW）の基準を満たさない状況が5年以上継続しているとして、絶滅危惧IA類（CR）にランクが変更された。

トキは低山地の林などに生息し、水田や河川湿地などを採餌場とし、ドジョウ、カエル、ミミズ等を捕食する。2月～9月を繁殖期とし、雌雄1つがいを形成するが、特に雌は広域を移動してつがい雄を探索する傾向があり、つがい形成期（1～4月）に本州へも飛来し、これまで新潟県、富山県、石川県、長野県等本州側で29例確認されている（令和4年4月時点）。これは野生生息個体数（推定）484羽（令和3年9月時点）の約6%にあたる。確認範囲は放鳥地である新潟県佐渡島から半径300km範囲である。このうち、事業実施想定区域近傍の村上市～聖籠町における確認例を表 3.1.44に、本州におけるトキの飛来状況を図3.1.46に示す。

表 3.1.44　事業実施想定区域近隣市町におけるトキ飛来情報

確認年月日	確認場所	備考
2014年2月27日	新潟県新発田市	足環なし
2014年7月12日 ～2015年2月19日	新潟県村上市、新潟県新発田市 （3月26日佐渡島内で確認）	足環No.180

資料：「トキニュース」（佐渡トキファンクラブHP、閲覧：2022年5月）より作成



資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.34（1）　ハクチョウ類の渡りの状況

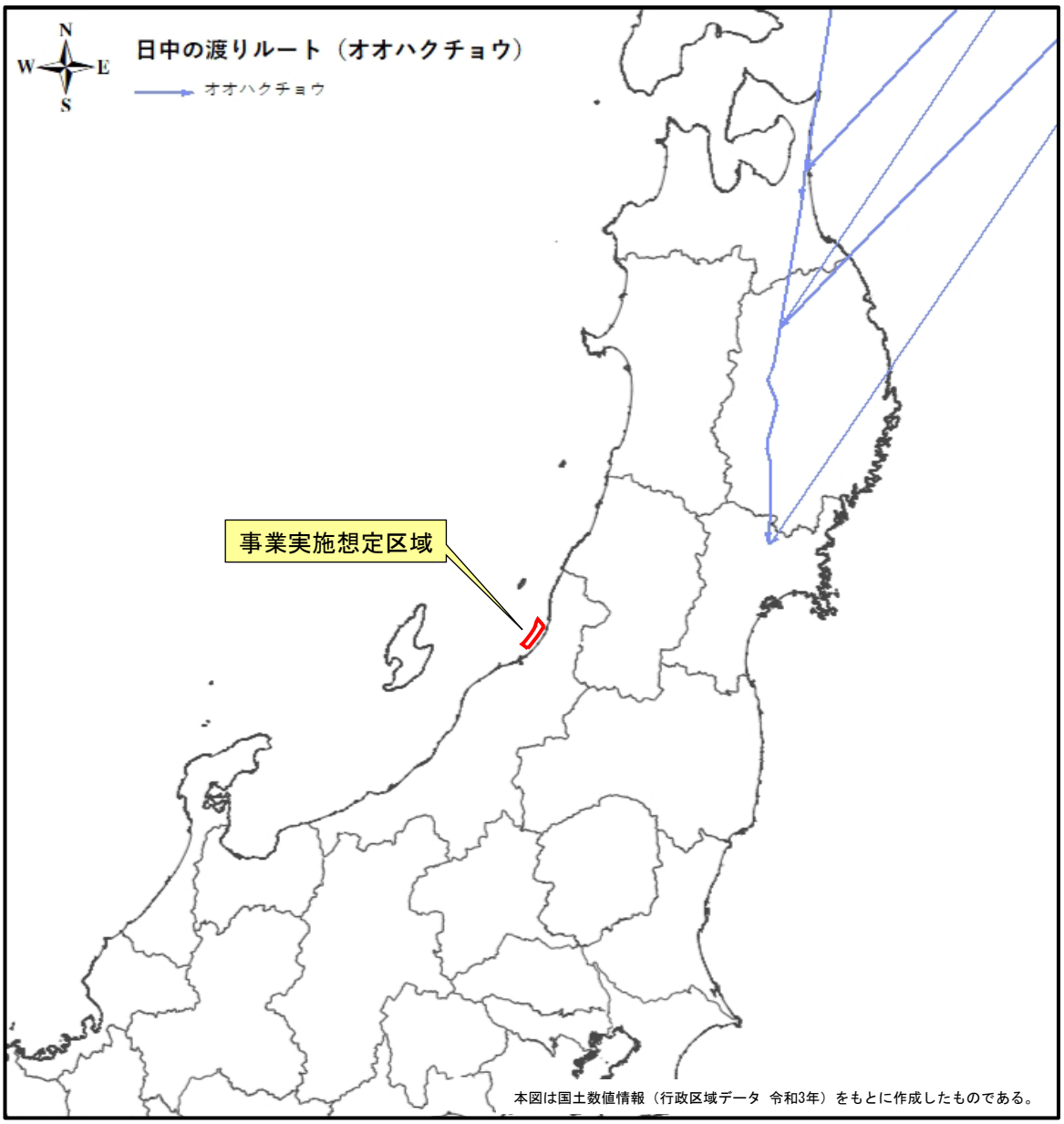


図 3.1.34（2）　ハクチョウ類の渡りの状況

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

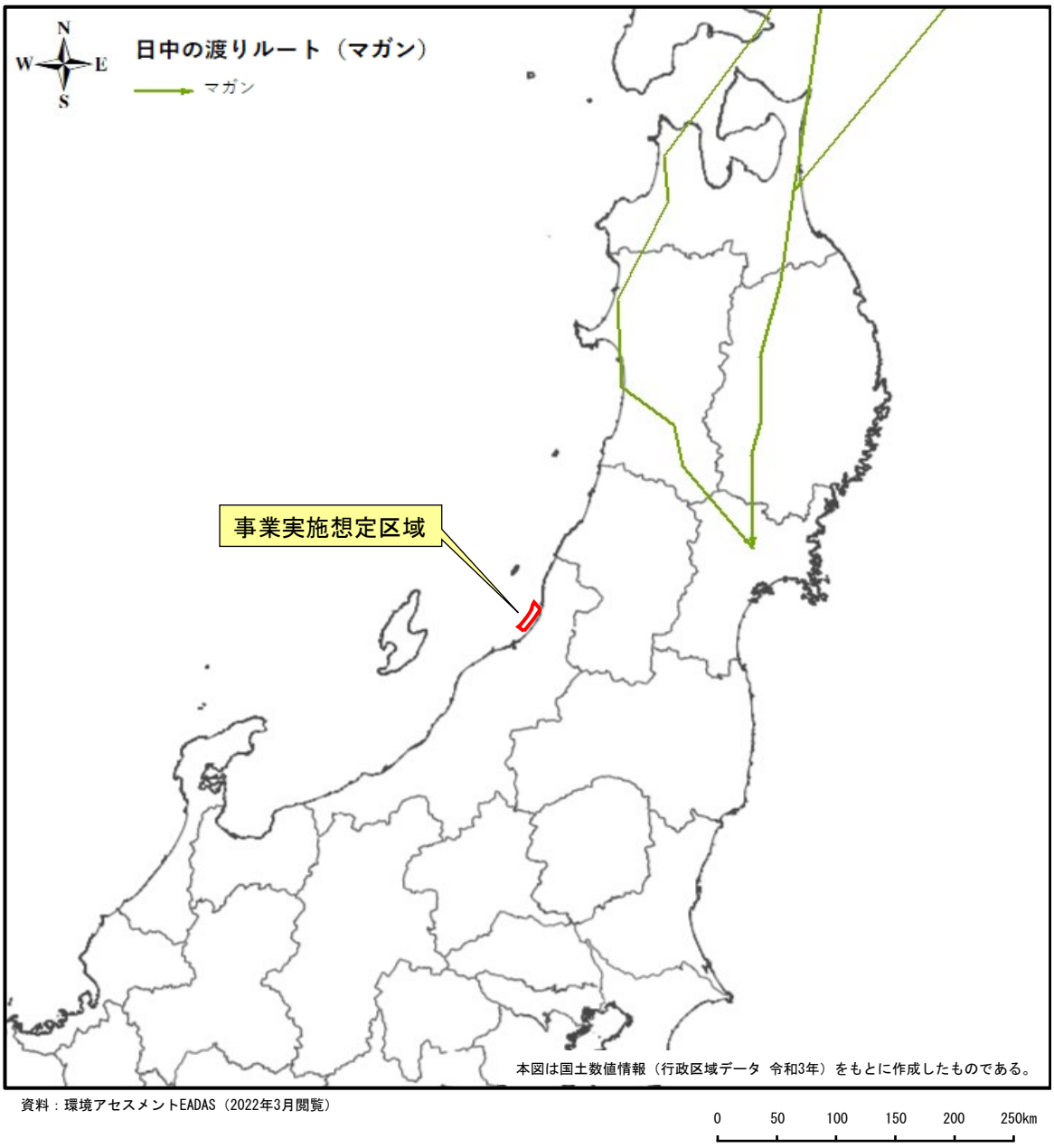
図 3.1.34（3）　ハクチョウ類の渡りの状況

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.35（1）　ガン類の渡りの状況

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.35（2）　ガン類の渡りの状況

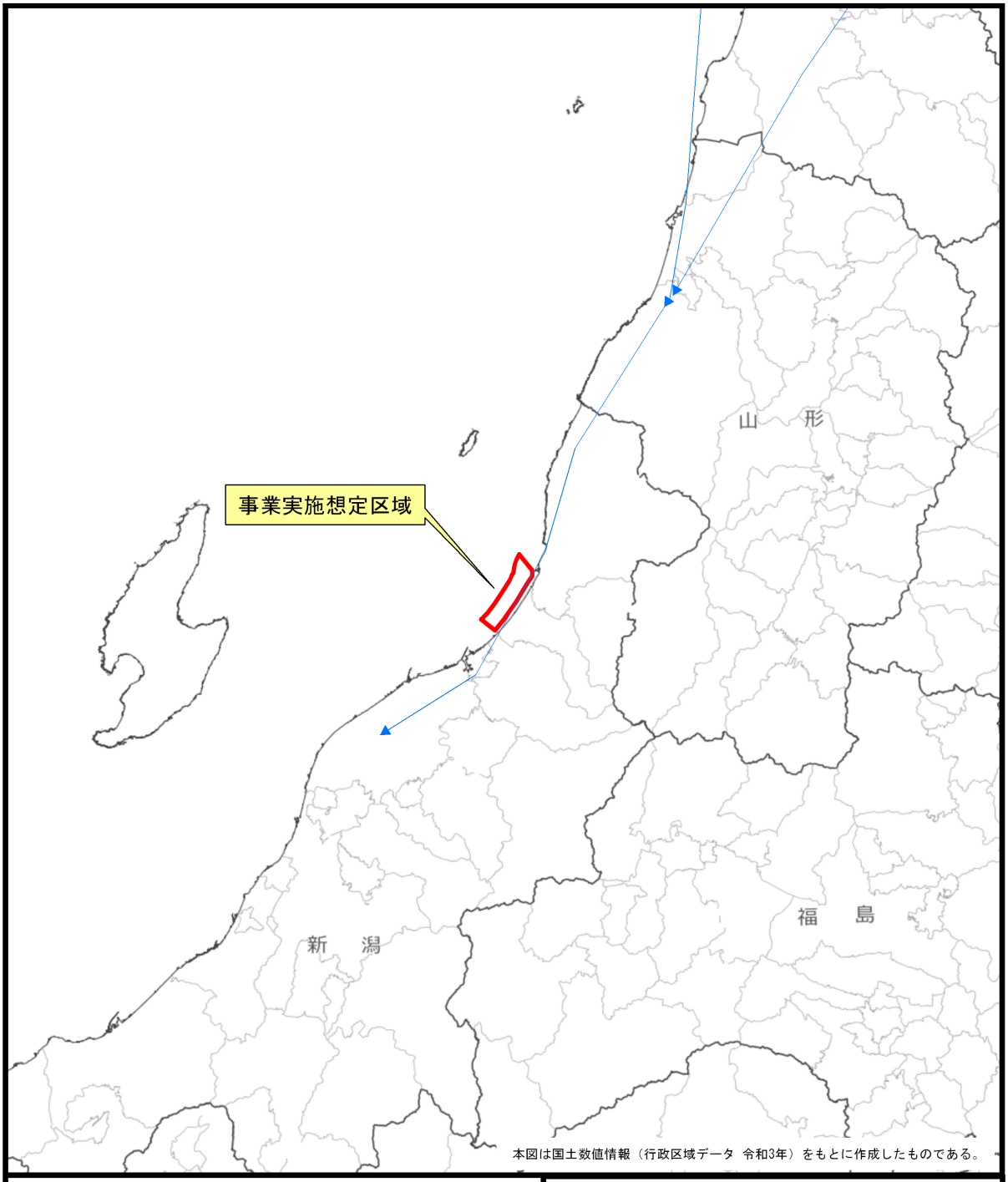


資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.35（3）　ガン類の渡りの状況

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.35（4）　ガン類の渡りの状況



凡　例

事業実施想定区域　和名

都道府県界

コハクチョウ

N
W
E
S

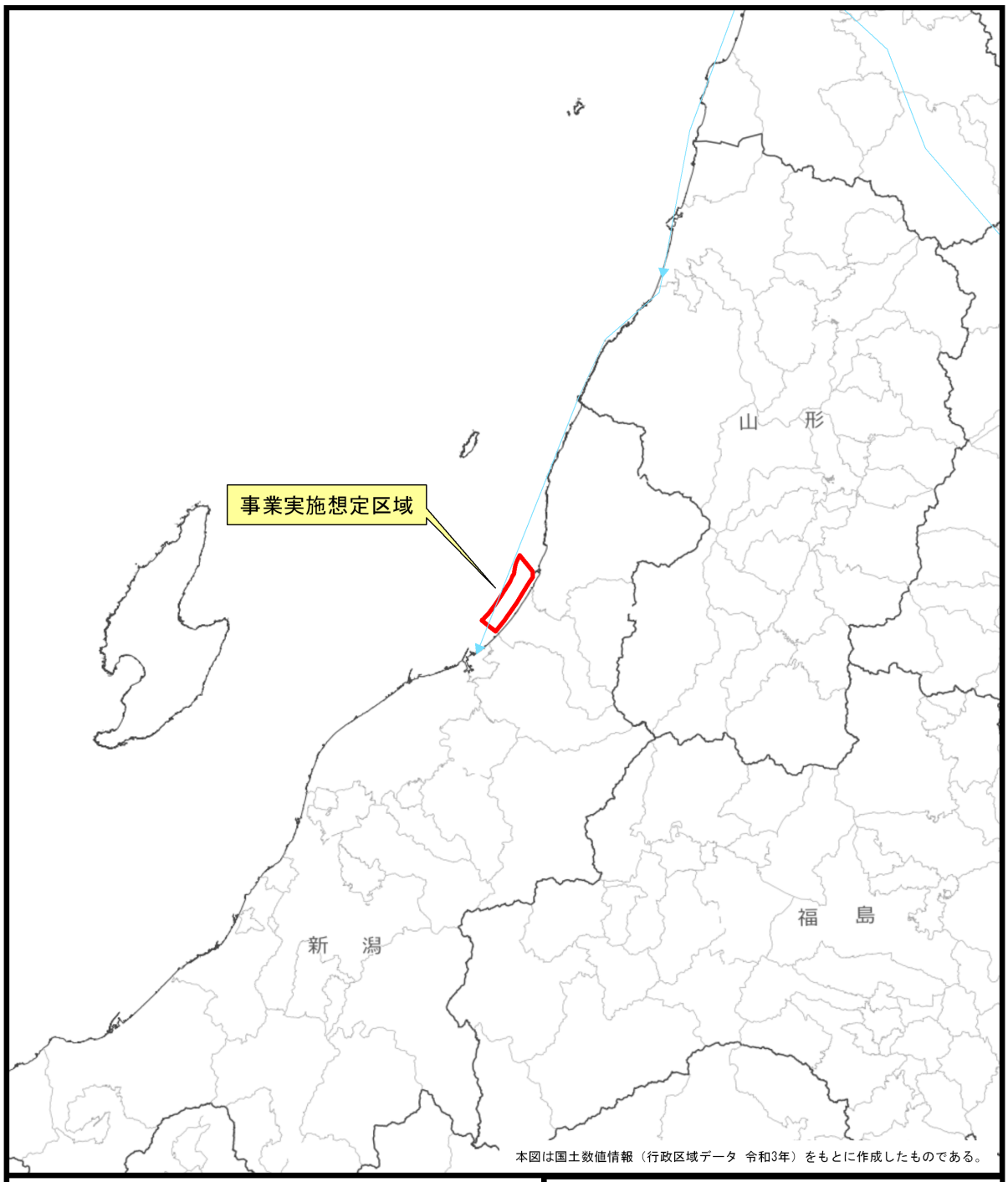
1:1,500,000

0　10　20　40　60

km

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.36　コハクチョウの
日中の渡りの状況図



凡　例

事業実施想定区域　和名

都道府県界

亜種オオヒシクイ

N
W
E
S

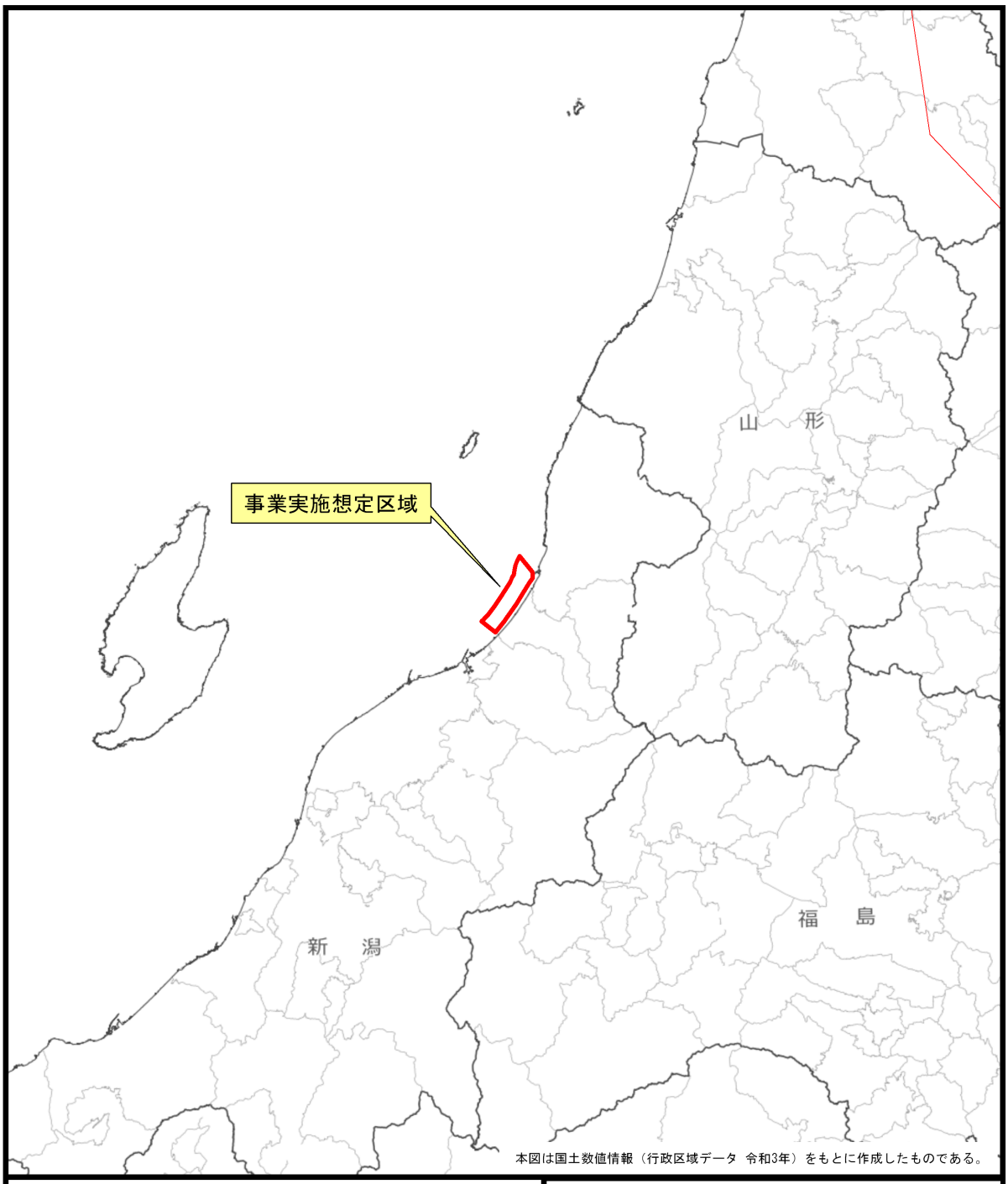
1:1,500,000

0　10　20　40　60

km

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.37　亜種オオヒシクイの
日中の渡りの状況



凡　例

事業実施想定区域　和名

都道府県界

亜種ヒシクイ

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

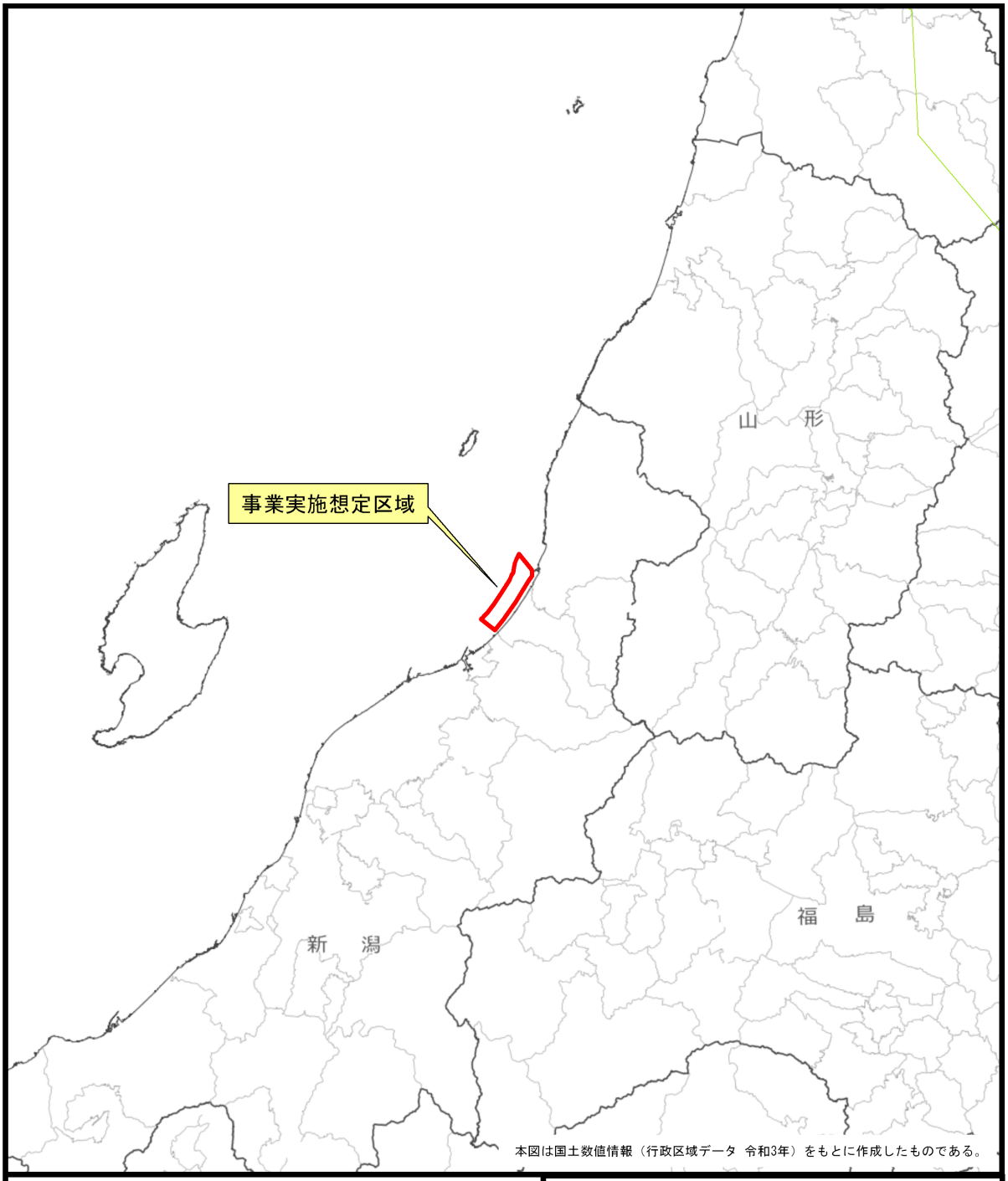
N
W
E
S

1:1,500,000

0　10　20　40　60

km

図 3.1.38　亜種ヒシクイの
日中の渡りの状況



凡　例

事業実施想定区域　和名

都道府県界

マガン

N
W
E
S

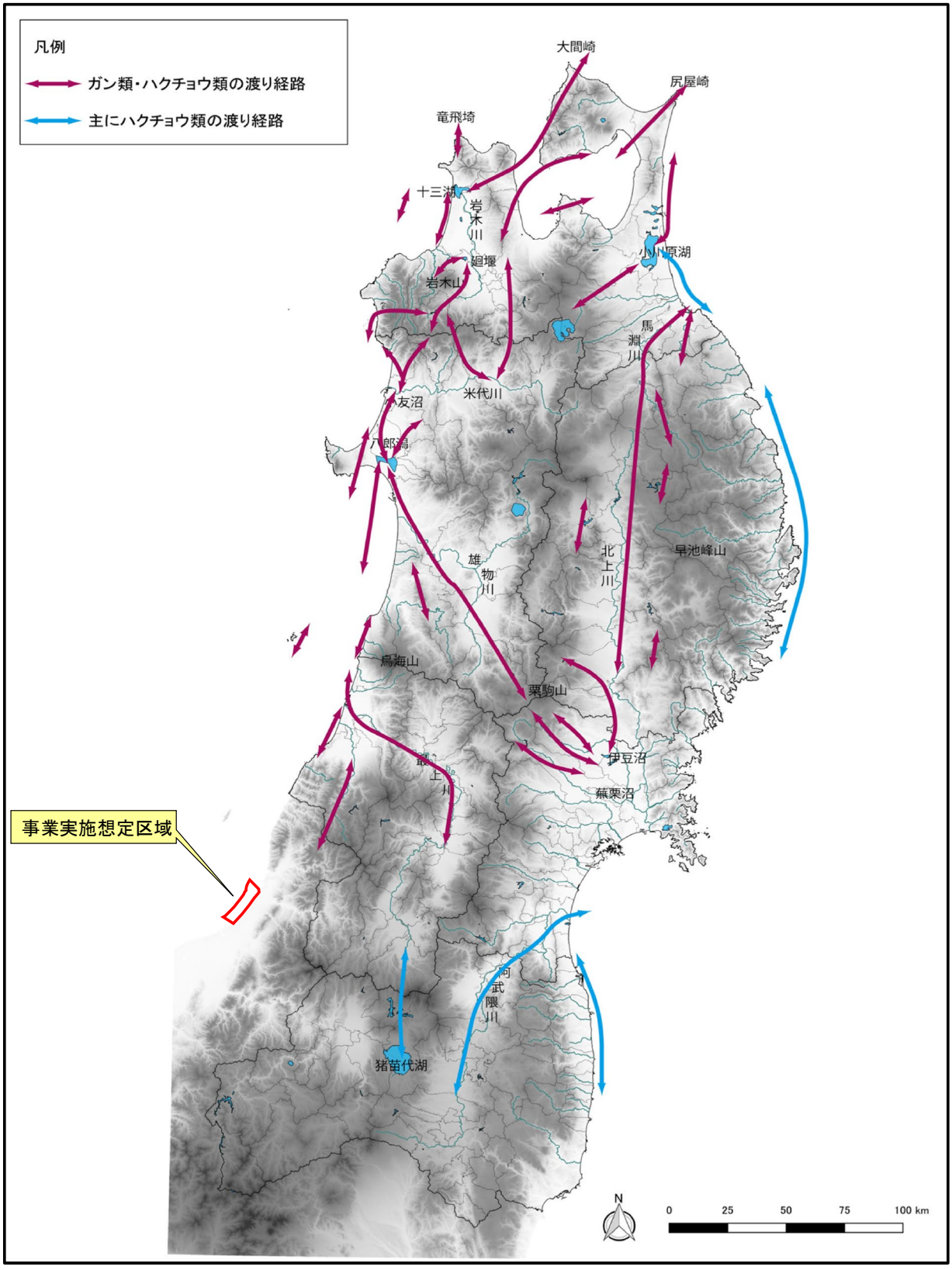
1:1,500,000

0　10　20　40　60

km

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.39　マガンの日中の渡りの状況



資料：平成26年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書

図 3.1.40　東北地方におけるハクチョウ類・ガン類の渡り状況

図 3.1.41（1）　タカ類の渡りの状況

図 3.1.41（2）　タカ類の渡りの状況

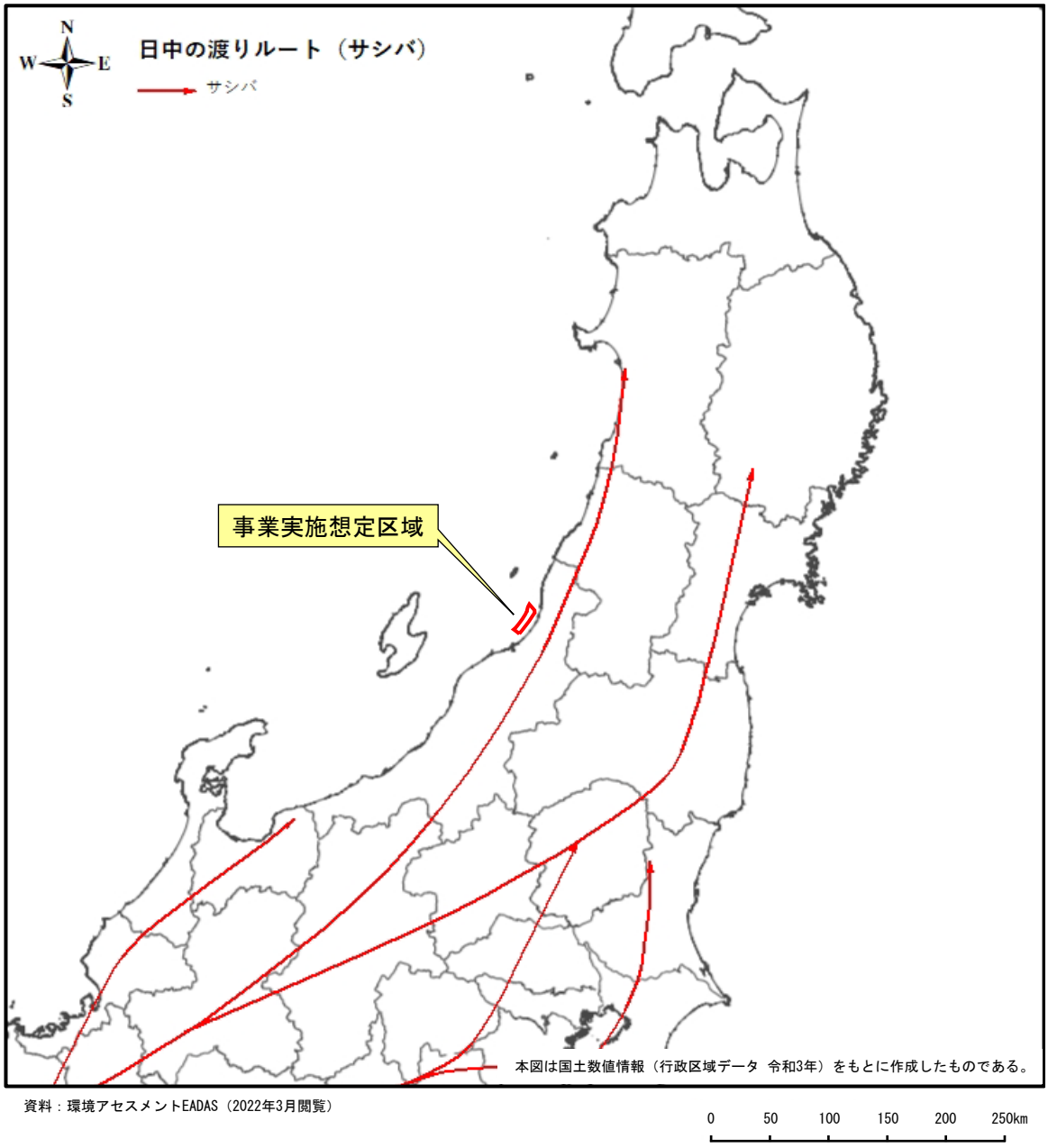
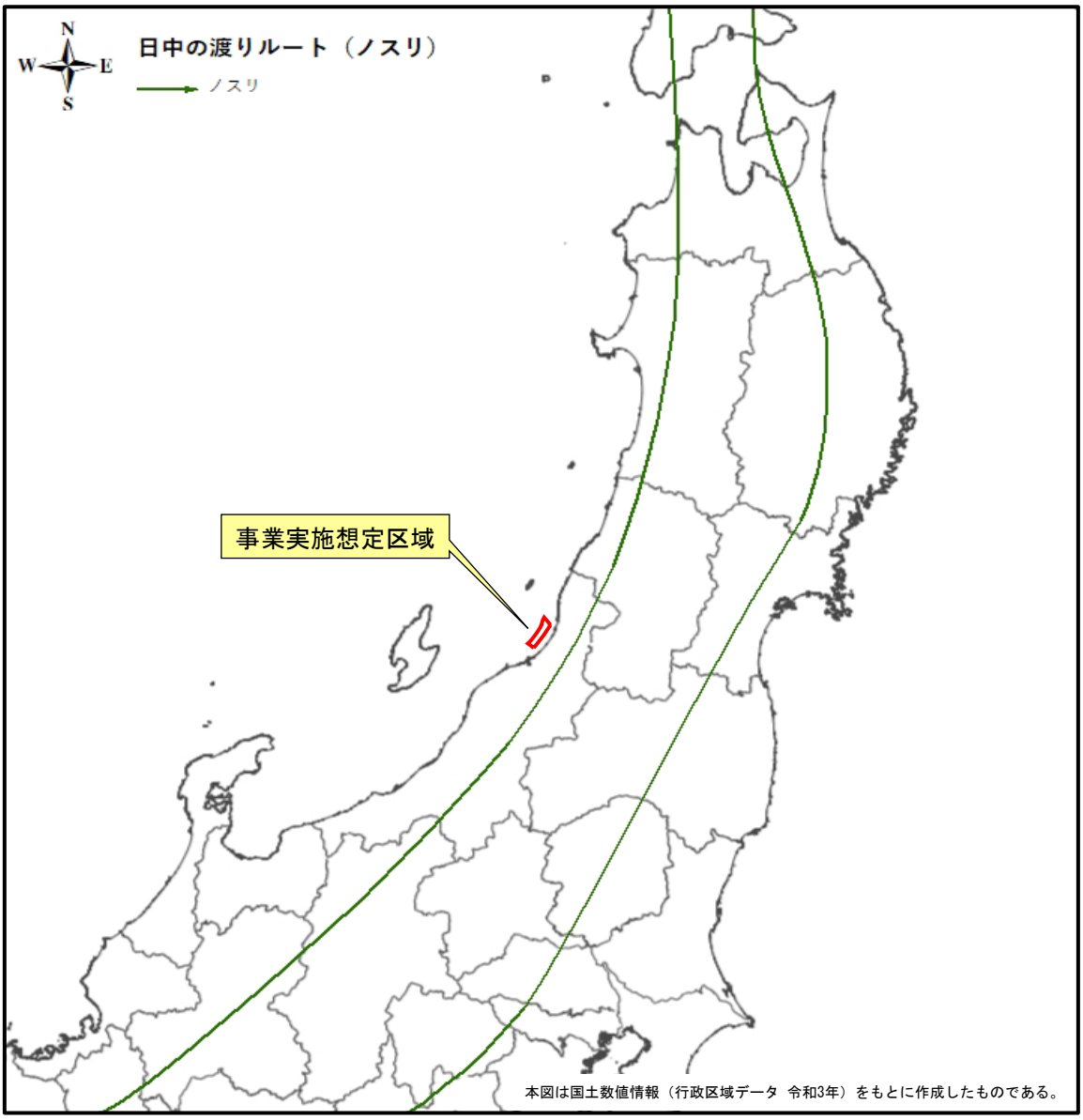
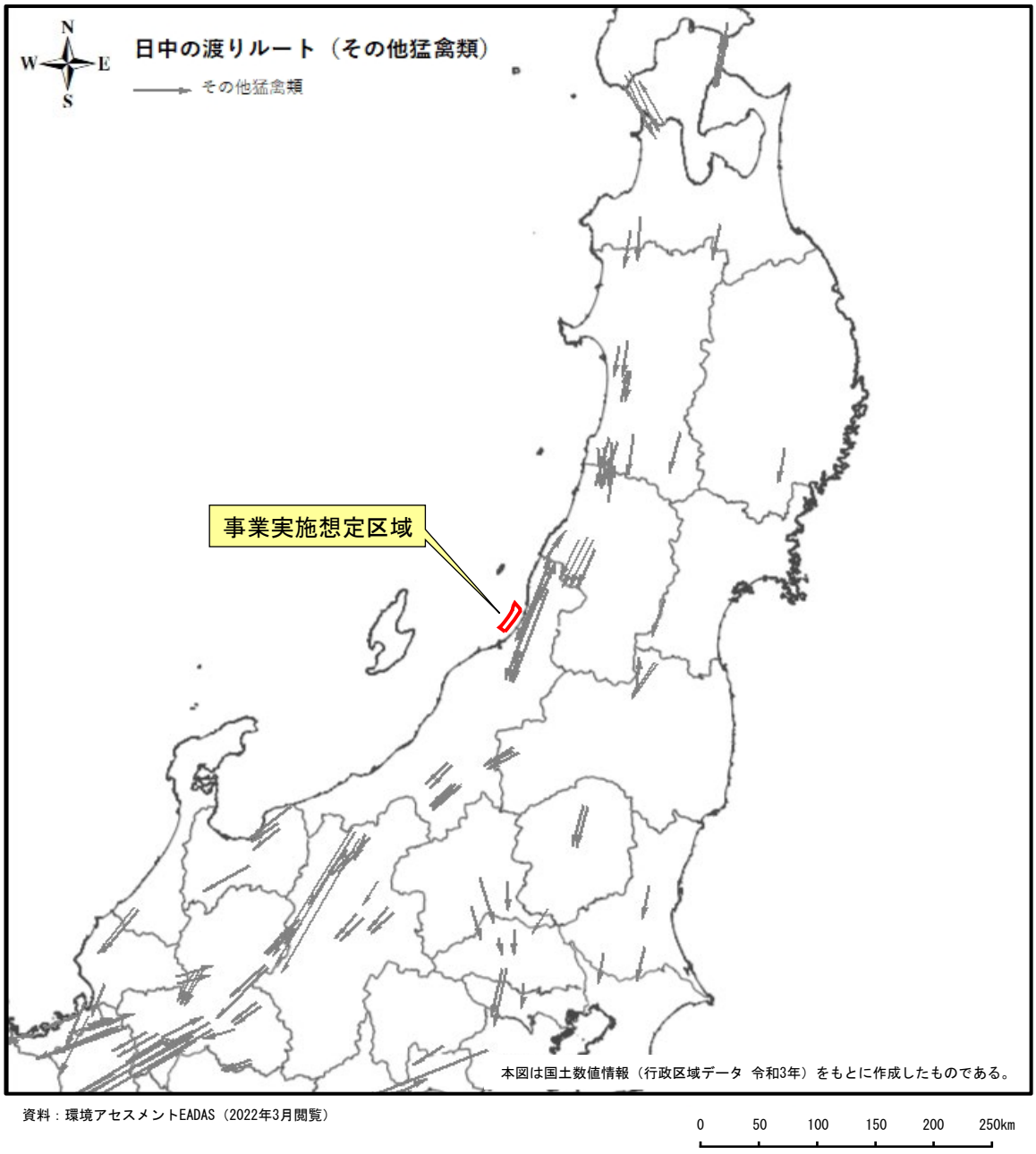


図 3.1.41（3）　タカ類の渡りの状況



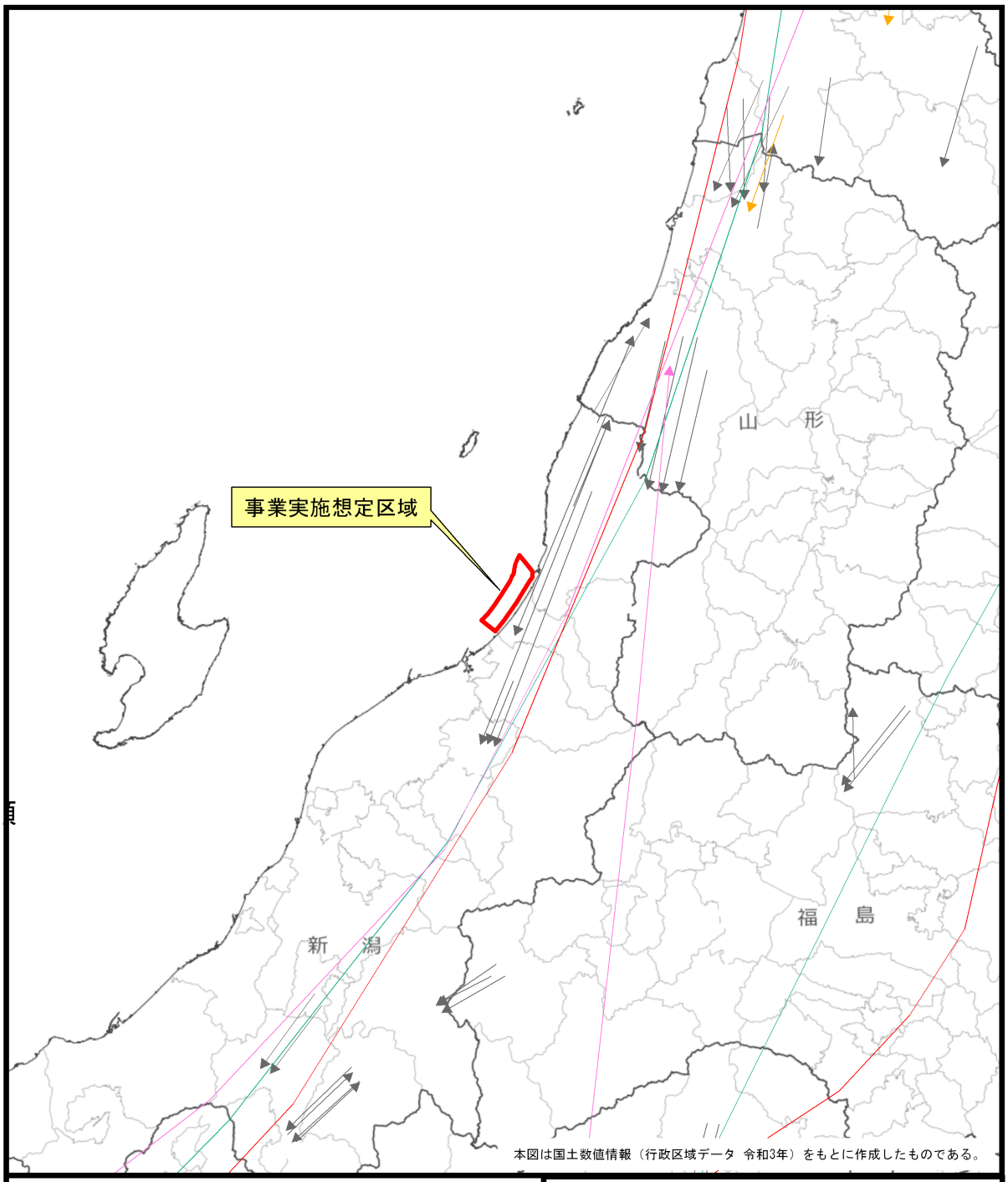
資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.41（4）　タカ類の渡りの状況



資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.41（5）　タカ類の渡りの状況



凡　例

事業実施想定区域　日中の渡りルート

都道府県界

海ワシ類

サシバ

ノスリ

ハチクマ

その他猛禽類

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

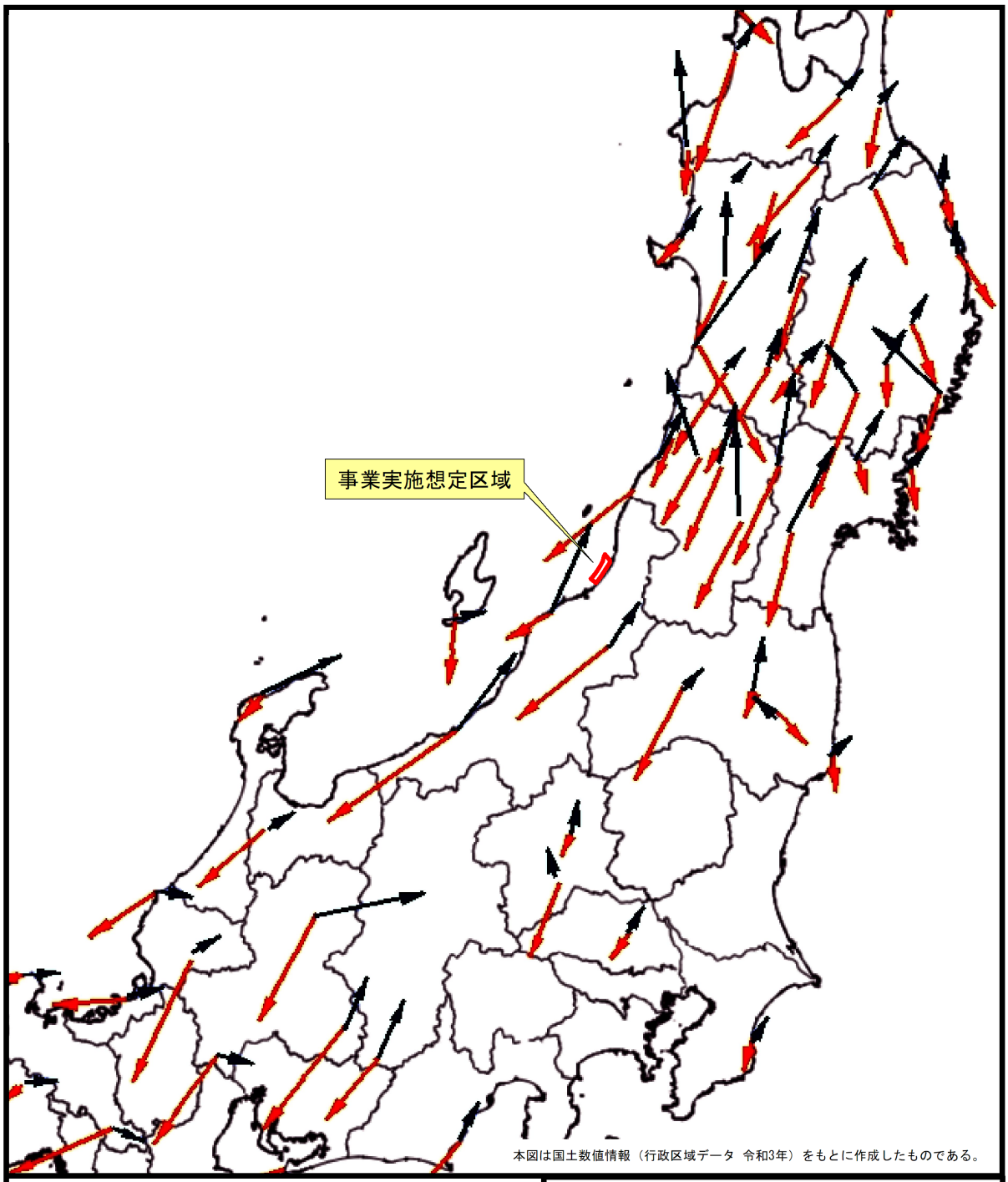
N
W
E
S

1:1,500,000

0　10　20　40　60

km

図 3.1.42　タカ類の渡りの状況
（日中）



凡　例

事業実施想定区域

都道府県界

夜の渡りルート

春の渡りルート

秋の渡りルート

N
W
E
S

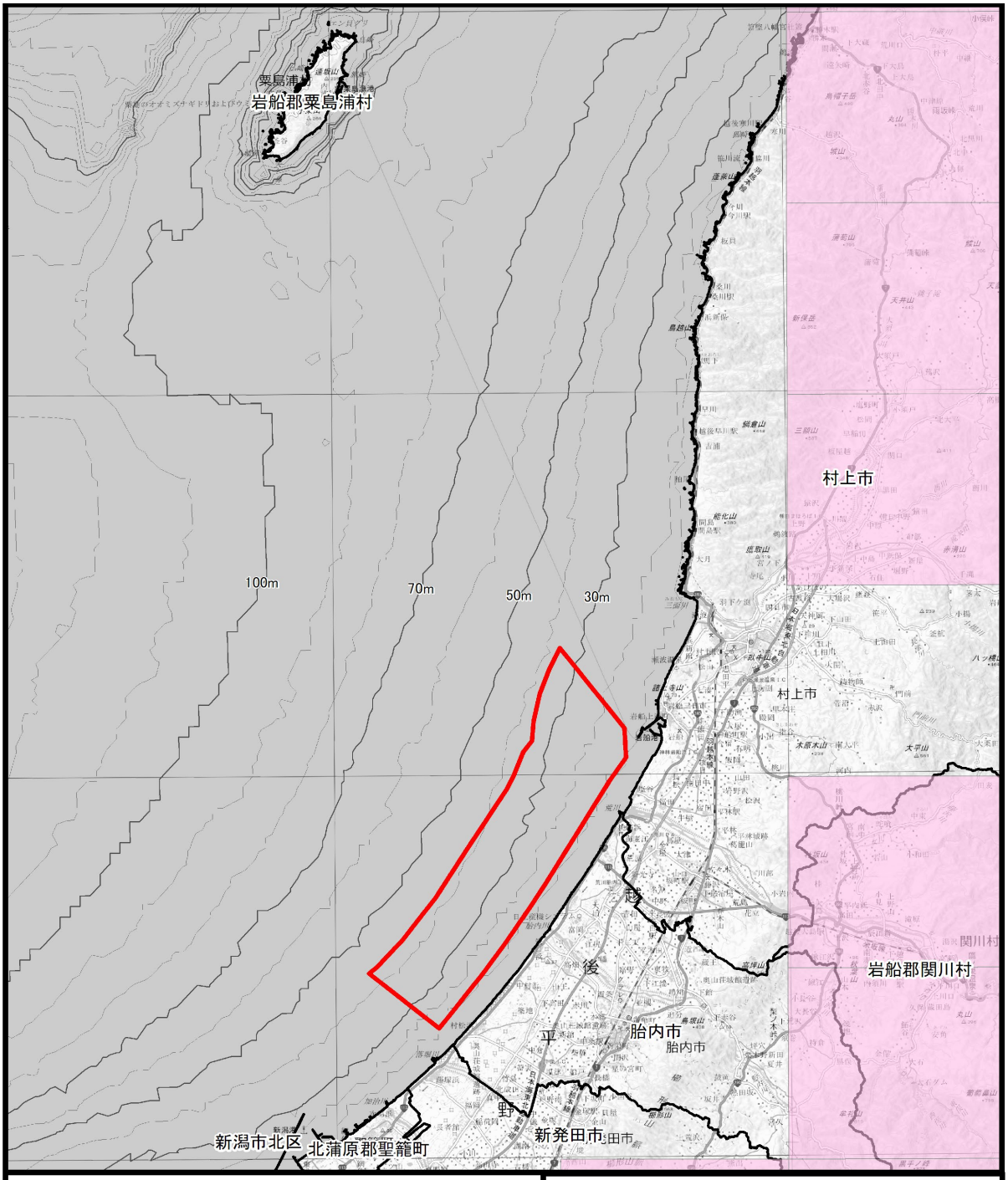
1:4,000,000

0　25　50　100　150

km

資料：環境アセスメントEADAS（2022年3月閲覧）

図 3.1.43　鳥類の渡りの状況
（夜間）



凡 例

事業実施想定区域

行政界

等深線

センシティビティマップ

イヌワシの生息分布

資料：環境省アセスメントEADAS（2022年3月）より作成

図 3.1.44　イヌワシの生息域

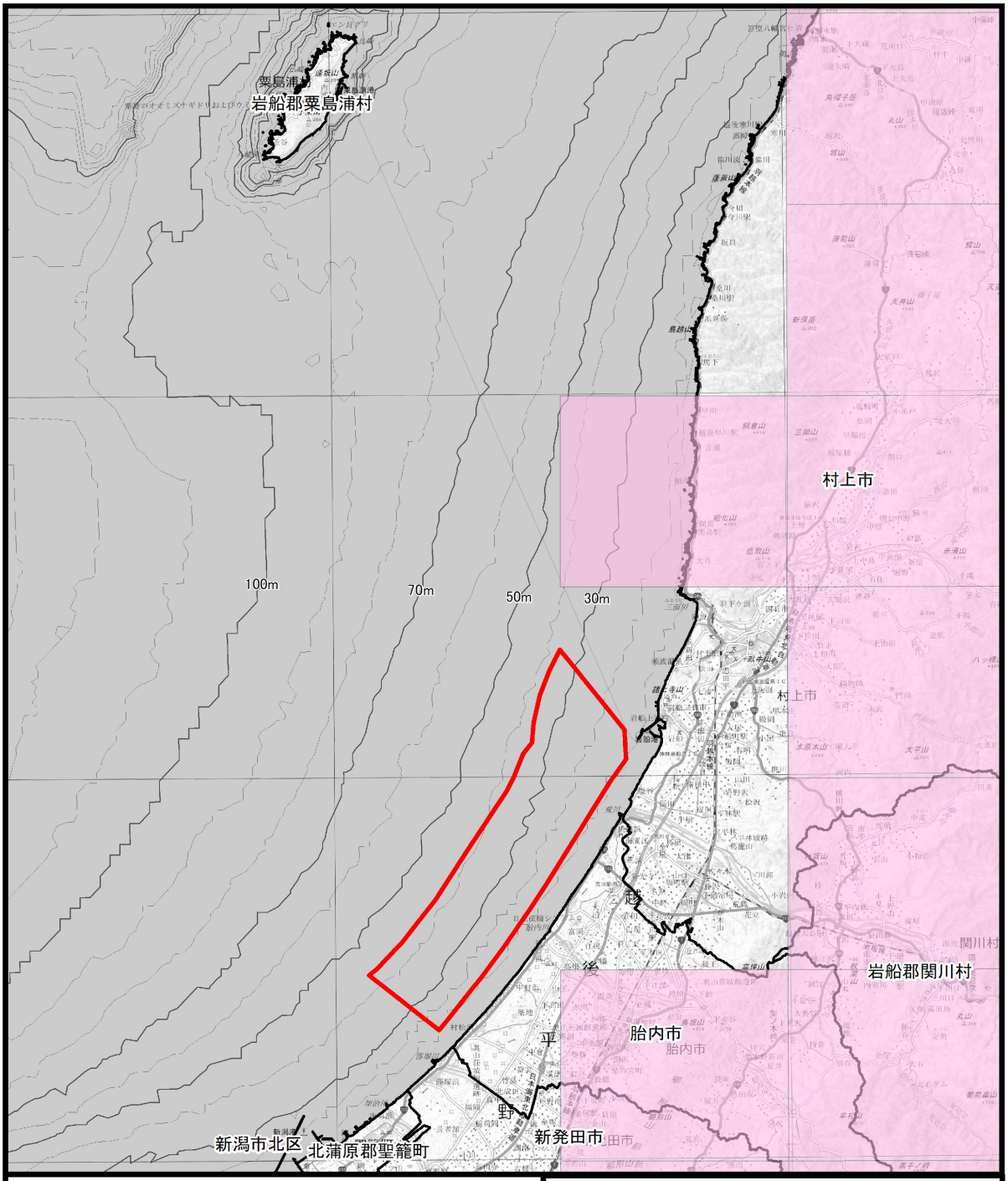


図 3.1.45　クマタカの生息域

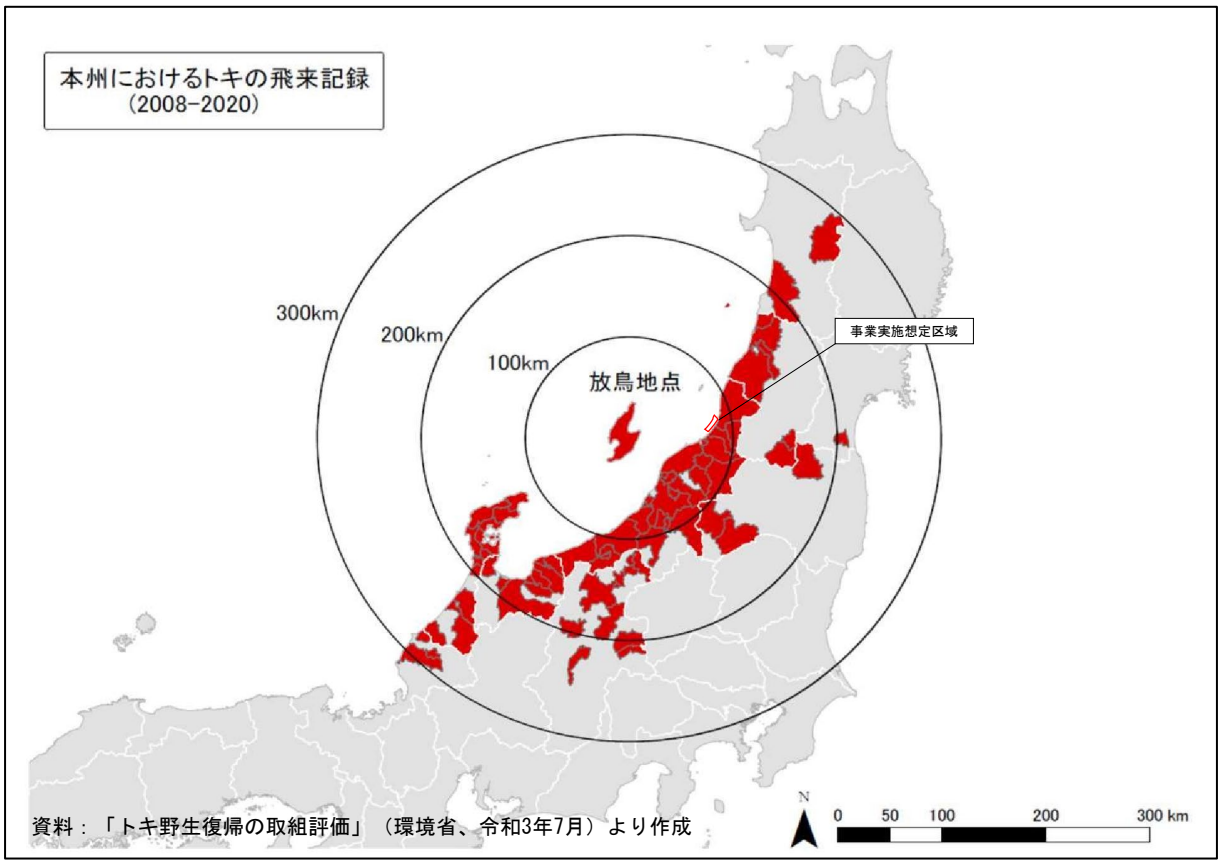


図 3.1.46　本州におけるトキの飛来状況

⑤　爬虫類・両生類

爬虫類・両生類に係る重要種は表 3.1.45及び表 3.1.46に示すとおりであり、爬虫類では新潟県第2次レッドリストに掲載されているシロマダラなど2目3科3種が確認されている。両生類では新潟県第2次レッドリストに掲載されているトウホクサンショウウオやトノサマガエルなど2目5科10種が確認されている。

表 3.1.45　爬虫類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ			NT	NT	
2		スッポン	ニホンスッポン			DD		
3	有鱗	ナミヘビ	シロマダラ				LP	
計	2目	3科	3種	0種	0種	2種	2種	0種

*1：種名及び順番は「日本産爬虫両生類標準和名リスト」　（2022年、日本爬虫両棲類学会）に基づく。
資料：表 3.1.35の出典に基づき作成。

表 3.1.46　両生類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	有尾	サンショウウオ	クロサンショウウオ			NT	NT	
2			トウホクサンショウウオ			NT	NT	
3			ハコネサンショウウオ				NT	
4			バンダイハコネサンショウウオ			NT	NT	
5		イモリ科	アカハライモリ			NT	NT	
6	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル				NT	
7		アカガエル	ニホンアカガエル				NT	
8			トノサマガエル			NT	VU	
9		アオガエル	モリアオガエル				NT	
10			カジカガエル				NT	
計	2目	5科	10種	0種	0種	5種	10種	0種

*1：種名及び順番は「日本産爬虫両生類標準和名リスト」　（2022年、日本爬虫両棲類学会）に基づく。
資料：表 3.1.35の出典に基づき作成。

⑥　淡水魚類

淡水魚類に係る重要種は表 3.1.47に示すとおりであり、環境省レッドリストに掲載されているニホンウナギやニホンイトヨなど8目12科31種が確認されている。

表 3.1.47（1）　淡水魚類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	カワヤツメ			VU	VU	
2			スナヤツメ類*2			VU	NT	
3	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ			EN	VU	
4	コイ	コイ	キタノアカヒレタビラ			EN	VU	
5			ゲンゴロウブナ			EN		
6			ジュウサンウグイ*3			LP	VU	
7			ウケクチウグイ			EN	VU	
8			エゾウグイ				VU	
9			シナイモツゴ			CR	VU	

表 3.1.47（2）　淡水魚類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
10	コイ	コイ	ヤリタナゴ			NT	NT	
11		ドジョウ	ドジョウ			NT		
12			キタドジョウ			DD		
13		フクドジョウ	ホトケドジョウ			EN	VU	
14	ナマズ	アカザ	アカザ			VU	NT	
15	サケ	キュウリウオ	ワカサギ				NT	
16		サケ	サツキマス・アマゴ*4			NT		
17			サクラマス・ヤマメ*5			NT	NT	
18			ニッコウイワナ			DD	NT	
19	トゲウオ	トゲウオ	ニホンイトヨ*6			LP	EN	
20			トミヨ属淡水型*7			LP	EN	
21	ダツ	メダカ	キタノメダカ			VU	NT	
22	スズキ	カジカ	カジカ*8			NT	NT	
23			ウツセミカジカ*9			EN		
24			カジカ中卵型			EN	VU	
25			カマキリ（アユカケ）			VU	NT	
26		ハゼ	ビリンゴ				VU	
27			ジュズカケハゼ			NT		
28			シロウオ			VU	VU	
29			クロヨシノボリ				EN	
30			ゴクラクハゼ				LP	
31			チチブ				LP	
計	8目	12科	31種	0種	0種	25種	2種	0種

*1：種名及び配列は原則として、「日本産魚類全種目録　これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名」（2022年4月、本村浩之）に基づく。
*2：Ⅲは、「スナヤツメ北方種」、「スナヤツメ南方種」、Ⅳは「スナヤツメ（北方種・南方種）」として記載されている。
*3：Ⅲは、「本州のジュウサンウグイ」として記載されている。
*4：Ⅲ：サツキマス（アマゴ）で記載
*5：Ⅲ、Ⅳ：サクラマス（ヤマメ）で記載
*6：Ⅲは、「本州のニホンイトヨ」として記載されている。
*7：Ⅲは、「本州のトミヨ属淡水型」として記載されている。
*8：Ⅲ、Ⅳは、「カジカ大卵型」として記載されている。
*9：Ⅲは、「カジカ小卵型」として記載されている。
資料：表 3.1.35の出典に基づき作成。

⑦　昆虫類

昆虫類に係る重要種は表 3.1.48に示すとおりであり、種の保存法に掲載されているタガメや環境省レッドリストに記載されるコバネアオイトトンボなど6目48科95種が確認されている。

表 3.1.48（1）　昆虫類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	トンボ	アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ			EN	VU	
2		イトトンボ	モートンイトトンボ			NT		
3		イトトンボ	オオセスジイトトンボ			EN	EN	
4		モノサシトンボ	オオモノサシトンボ			EN	EN	希少
5			アマゴイルリトンボ				NT	
6		カワトンボ	アオハダトンボ			NT	VU	
7		ヤンマ	アオヤンマ			NT	NT	
8			マダラヤンマ			NT	VU	
9			カトリヤンマ				VU	
10		サナエトンボ	キイロサナエ			NT	VU	

表 3.1.48（2）　昆虫類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
11	トンボ	サナエトンボ	ホンサナエ				VU	
12			ヒメサナエ				NT	
13			オジロサナエ				NT	
14			ナゴヤサナエ			VU	NT	
15			メガネサナエ			VU	EN	
16		エゾトンボ	トラフトンボ				NT	
17			ハネビロエゾトンボ			VU		
18		トンボ	マダラナニワトンボ			EN	EN	
19			オオキトンボ			EN	EN	
20	バッタ	キリギリス	オオクサキリ				NT	
21			カヤキリ				NT	
22		バッタ	アカハネバッタ		国内	CR		
23	カメムシ	セミ	アカエゾゼミ				NT	
24			ハルゼミ				NT	
25		ヨコバイ	ババオオヨコバイ				LP	
26		グンバイムシ	コリヤナギグンバイ			DD	VU	
27		ハナカメムシ	ズイムシハナカメムシ			NT	VU	
28		ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ			NT	NT	
29		キンカメムシ	オオキンカメムシ				LP	
30		イトアメンボ	イトアメンボ			VU	NT	
31		コオイムシ	コオイムシ			NT	NT	
32			タガメ		国内	VU	EN	
33		コバンムシ	コバンムシ			EN	NT	
34	チョウ	ボクトウガ	ハイイロボクトウ			NT		
35		セセリチョウ	ホソバセセリ				NT	
36			ヘリグロチャバネセセリ				NT	
37		シジミチョウ	チョウセンアカシジミ			VU	EN	
38			オオゴマシジミ			NT	VU	
39			ヒメシジミ本州・九州亜種*2			NT	NT	
40			ミヤマシジミ			EN	VU	
41		タテハチョウ	ベニヒカゲ本州亜種*3			NT	NT	
42			ヒカゲチョウ				VU	
43			コジャノメ				NT	
44			オオミスジ				NT	
45			ホシミスジ東北・中部地方亜種*4				NT	
46			オオムラサキ			NT	NT	
47		アゲハチョウ	ギフチョウ			VU	NT	
48		ツトガ	ムナカタミズメイガ			NT	NT	
49		シャクガ	ババエダシャク				LP	
50		ヤママユガ	シンジュサン本州以西亜種*5				LP	
51		スズメガ	スキバホウジャク			VU		
52		ヒトリガ	キハダカノコ				NT	
53		ヤガ	ハマヤガ			NT	NT	
54			ヤヒコカラスヨトウ				NT	
55			ヌマベウスキヨトウ			VU		
56			マガリスジコヤガ			VU		
57	コウチュウ	オサムシ	アカガネオサムシ本州亜種*6			VU	NT	
58			マークオサムシ*7			VU	EN	
59			セアカオサムシ			NT		
60			フトキバスナハラゴミムシ			NT	NT	
61			アリスアトキリゴミムシ			DD		
62			エチゴトックリゴミムシ			NT	NT	

表 3.1.48（3）　昆虫類の重要種

No.	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
63	コウチュウ	ハンミョウ	ハラビロハンミョウ			VU	NT	
64			カワラハンミョウ			EN	NT	
65			アイヌハンミョウ			NT	EN	
66		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ			NT		
67			ゲンゴロウ			VU	NT	
68			コガタノゲンゴロウ			VU	NT	
69			シャープゲンゴロウモドキ		国内	CR	EN	
70			マルガタゲンゴロウ			VU		
71			ケシゲンゴロウ			NT		
72			キベリクロヒメゲンゴロウ			NT		
73		ミズスマシ	コミズスマシ			EN		
74			コオナガミズスマシ			VU		
75		コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ			DD		
76		ガムシ	コガムシ			DD		
77			エゾコガムシ			NT	NT	
78			ガムシ			NT		
79			シジミガムシ			EN		
80		クワガタムシ	オオクワガタ			VU	NT	
81		コガネムシ	アラメエンマコガネ			NT	VU	
82			オオチャイロハナムグリ			NT	NT	
83		ヒメドロムシ	セマルヒメドロムシ			VU	EN	
84			アカツヤドロムシ			EN	EN	
85		カミキリムシ	ヨコヤマヒゲナガカミキリ				NT	
86			クロホソコバネカミキリ				NT	
87		ハムシ	オオルリハムシ			NT	NT	
88			キンイロネクイハムシ			NT		
89	ハチ	セイボウ	オオセイボウ*8			DD	NT	
90		アリ	トゲアリ			VU		
91		スズメバチ	モンスズメバチ			DD		
92		ギングチバチ	ニトベギングチ			DD	NT	
93		ドロバチモドキ	ヤマトスナハキバチ本土亜種*9			DD		
94			キアシハナダカバチモドキ			VU	NT	
95		ヒメハナバチ	ヤスマツヒメハナバチ			DD		
計	6目	48科	95種	0種	3種	71種	71種	1種

*1：種名及び順番は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和3年度生物リスト」（2021年、河川環境データベース　国土交通省水情報国土データ管理センター）に基づく。
*2：Ⅳは、「ヒメシジミ」として記載されている。
*3：Ⅳは、「ベニヒカゲ」として記載されている。
*4：Ⅳは、「ホシミスジ」として記載されている。
*5：Ⅳは、「シンジュサン」として記載されている。
*6：Ⅳは、「アカガネオサムシ」として記載されている。
*7：Ⅲは、「マークオサムシ本州亜種」として記載されている。
*8：Ⅲは、「オオセイボウ本土亜種」として記載されている。
*9：Ⅲは、「ヤマトスナハキバチ」として記載されている。
資料：表 3.1.35の出典に基づき作成。

⑧ 底生生物

河川水辺の底生生物に係る重要種は表 3.1.49に示すとおりであり、環境省レッドリストに掲載されているカワコザラガイやカラスガイなど2門4綱8目14科24種が確認されている。

表 3.1.49　底生生物の重要種

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	重要種の選定状況				
						Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	軟体動物	腹足	アマオブネガイ	アマオブネガイ	イシマキガイ				NT	
2			新生腹足	タニシ	マルタニシ				NT	
3					オオタニシ			NT	NT	
4			汎有肺	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ			DD		
5					モノアラガイ			NT	NT	
6				カワコザラガイ	カワコザラガイ*2			CR		
7		二枚貝	イシガイ	イシガイ	カラスガイ			EN	NT	
8					ヨコハマシジラガイ			NT	NT	
9					ニセマツカサガイ			VU		
10					カタハガイ			VU	VU	
11					マツカサガイ広域分布種*3			NT	NT	
12			マルスダレガイ	シジミ	ヤマトシジミ			NT		
13					マシジミ			VU	EN	
14				マメシジミ	ニホンマメシジミ				NT	
15	節足動物	軟甲	エビ	ヌマエビ	ミゾレヌマエビ				VU	
16					ヌカエビ				VU	
17				テナガエビ	テナガエビ				NT	
18					スジエビ				NT	
19				ベンケイガニ	クロベンケイガニ				NT	
20					アカテガニ				NT	
21				ムツハアリアケガニ	アリアケモドキ				VU	
22		昆虫	ハエ	アミカ	カニギンモンアミカ			VU		
23			コウチュウ	コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ			DD		
24				ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ			VU		
計	2門	4綱	8目	14科	24種	0種	0種	13種	17種	0種

*1：種名及び順番は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和3年度生物リスト」（2021年、河川環境データベース　国土交通省水情報国土データ管理センター）に基づく。
*2：Ⅲは、「カワコザラガイ」として記載されている。
*3：Ⅲは、「マツカサガイ」として記載されている。
資料：表 3.1.35の出典に基づき作成。

⑨ 注目すべき生息地

事業実施想定区域及びその周囲における陸上生物にかかる注目すべき生息地は、表3.1.50に及び図3.1.47に示すとおりである。

表 3.1.50 陸上生物にかかる注目すべき生息地

No.	注目すべき生息地	選定基準									
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ
1	瀬波			A							
2	お幕場			A							
3	乙			A							
4	貝屋			A							
5	原巻			A							
6	藤塚浜			A							
7	鼓岡			A							
8	飛島・御積島					指定					
9	越後平野						指定				
10	地本湧水							指定			
11	新潟海岸							指定			
12	瀬波笹川流れ粟島県立自然公園									特別・地域	
13	胎内二王子県立自然公園									特別・地域	
14	桃崎浜自然環境保全地域										都保

資料：「国土数値情報　鳥獣保護区データ」（国土交通省HP、閲覧：令和4年4月）
「マリーンIBA(海鳥の重要生息地)」（公益財団法人日本野鳥の会HP、閲覧：令和4年4月）
「KBA（生物多様性保全の鍵になる重要な地域）～私たちが残したい未来の自然～」
（コンサベーション・インターナショナル・ジャパンHP、閲覧：令和4年4月）
「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省HP、閲覧：令和4年4月）
「国土地理院数値情報　自然公園地域データ」（国土交通省HP、閲覧：令和4年4月）
「自然環境保全地域各種データ」（環境省HP、閲覧：令和4年4月）

表 3.1.51 鳥獣保護区

No.	名称	面積		指定機関	期限
		(ha)	うち特別保護地区面積		
1	瀬波	637	-	県	令和6年10月31日
2	お幕場	418	-	県	令和6年10月31日
3	乙	656	-	県	令和8年10月31日
4	貝屋	5	-	県	令和7年10月31日
5	原巻	42	-	県	令和4年10月31日
6	藤塚浜	203	-	県	令和13年10月31日
7	鼓岡	84	-	県	令和9年10月31日

注：1.「－」は特別保護地区の指定がないことを示す。
資料：「国土数値情報　鳥獣保護区データ」（国土交通省 HP、閲覧：令和 4 年 4 月）

表 3.1.52　マリーンIBA（海鳥の重要生息地）

名称	繁殖している海鳥	環境構成	選定基準と対象種
飛島・御積島	ウミネコ、ウミウ、オオミズナギドリ、ケイマフリ	飛島（面積2.7㎢）は酒田港から北西39㎞の日本海に位置し、対馬暖流の影響を受け、気候は温暖である。島の南東部の舘岩と、西にある御積島はウミネコの集団繁殖地となっているが、近年、繁殖数が激減している。飛島の海底には県指定天然記念物「飛島サンゴ類群棲地」がある。周辺海域では、トビウオ、サザエ、メバル、岩ノリ、タラ、カニ等が水揚げされている。	A4i：群れを作る水鳥の生物地理的個体群の1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト（ウミネコ） A4iii：１種以上で２万羽以上の水鳥、または1万つがい以上の海鳥が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト（ウミネコ）

資料：「マリーンIBA(海鳥の重要生息地)」（公益財団法人日本野鳥の会HP、閲覧：令和4年4月）

表 3.1.53　KBA（生物多様性保全の鍵になる重要な地域）

名称	所在地	保護地域	面積（ha）
越後平野	新潟県三条市、新潟県五泉市、新潟県加茂市、新潟県北蒲原聖籠町、新潟県南蒲原田上町、新潟県新潟市中央区、新潟県新潟市北区、新潟県新潟市南区、新潟県新潟市江南区、新潟県新潟市秋葉区、新潟県新潟市西区、新潟県新潟市西蒲区、新潟県新発田市、新潟県燕市、新潟県胎内市、新潟県見附市、新潟県長岡市、新潟県阿賀野市	佐方・福島潟・瓢湖国指定鳥獣保護区	77,706

資料：「KBA（生物多様性保全の鍵になる重要な地域）～私たちが残したい未来の自然～」
（コンサベーション・インターナショナル・ジャパンHP、閲覧：令和4年4月）

表 3.1.54　生物多様性の観点から重要度の高い湿地

No.	所在地	名称	生息・生育域	生物分類群	設定理由
1	胎内市	地本湧水	胎内川伏流水、地本湧水	湿原植生	ハンノキ林・ミズバショウ群生地、ミクリの生育地、相当数が生育する。 <選定基準2>：希少種、固有種等が生育・生息している場合 <選定基準4>：特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合
2	新潟市、北蒲原郡聖籠町、村上市、胎内市、新発田市	新潟海岸	加治川河口、阿賀野川河口、荒川河口、落堀川河口、胎内川河口	湿地性鳥類	コアジサシの継続的な集団繁殖地 <選定基準2>：希少種、固有種等が生育・生息している場合 <選定基準4>：特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合

資料：「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省HP、閲覧：令和4年4月）

表 3.1.55　自然公園

公園名	所在地	制定年度	面積（ha）	詳細
瀬波笹川流れ 粟島 県立自然公園	村上市 粟島浦村	1959年	2,340	日本海に面した豪壮な海岸を特徴とし、特に笹川流れは代表的で、義経が奥州に逃れる途中、あまりの美しさに馬を戻して見なおしたという岩礁が数多くある。また、最近の孤島ブームや鯛釣りで脚光を浴びている粟島がある。
胎内二王子 県立自然公園	胎内市 新発田市	1959年	13,686	櫛形山脈は、「日本一小さな山脈」として知られている。胎内地区はスキー場をはじめ、レジャー施設が整備され保養地として人気があり、胎内渓谷は野鳥が豊富で、バードウォッチングに適している。

資料：「国土地理院数値情報　自然公園地域データ」（国土交通省HP、閲覧：令和4年4月）
「新潟県　環境局環境対策課　県立自然公園」（新潟県HP、閲覧：令和4年4月）

表 3.1.56　自然保全地域

地区名	所在地	面積 (ha)	指定年月日	地域の内容
桃崎浜自然環境保全地域	胎内市	16.52	昭和 59 年 3 月 30 日	本地域は、胎内市桃崎浜の砂丘地帯で、ここには県内の海岸砂丘植生を構成する主な植物が集団的に生育し、優れた自然環境が残されている。 この砂丘は新潟砂丘の北端付近に位置し、海岸部に接して発達する砂丘列の第 1 列に当たる。 地域内には、ハマナス、ハマゴウ、アキグミ、ケカモノハシ、カワラヨモギ、ハマニガナ、セナミスミレ等の砂丘植生が良好に生育している。 特にハマナスは所々に大群落を形成しており、県内の砂丘植生が改変等により少なくなっている現在、海岸砂丘の原植生の一端を示すものとして学術的にも貴重な地域である。

資料：「自然環境保全地域各種データ」（環境省HP、閲覧：令和4年4月）
「新潟県　環境局環境対策課　自然（緑地）環境保全地域（下越地域）」（新潟県HP、閲覧：令和4年4月）

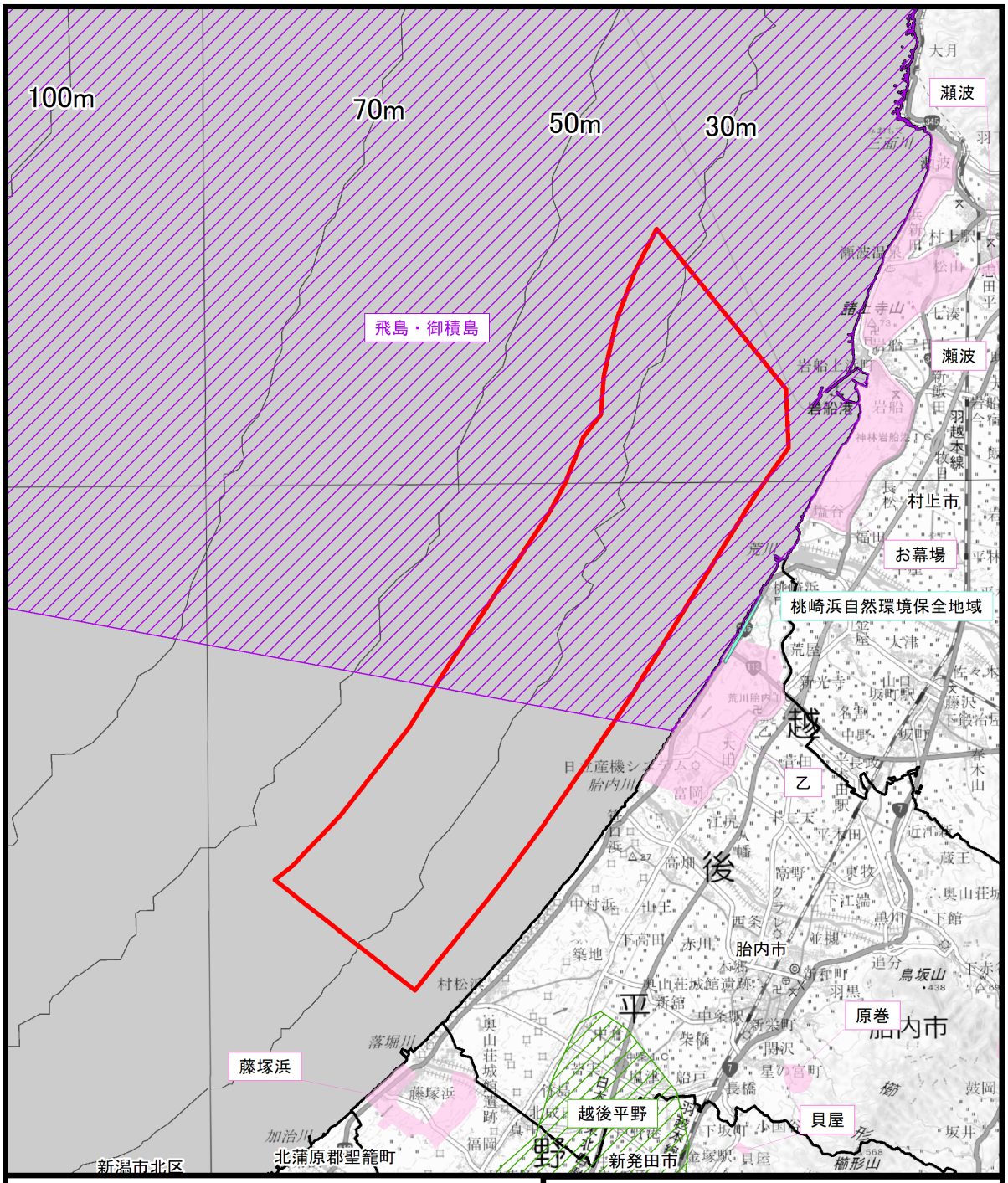


図 3.1.47（1）　注目すべき生息地

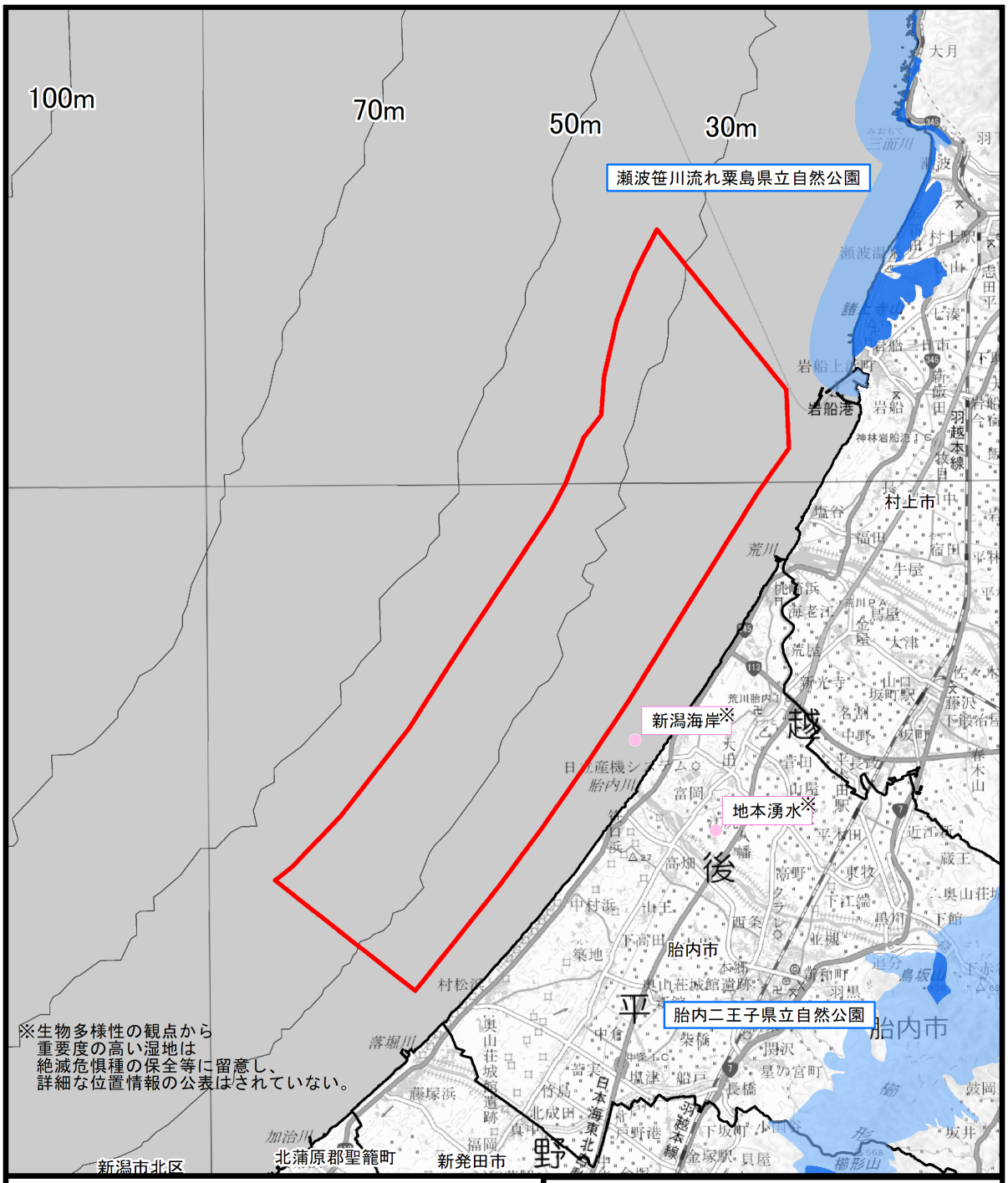


図 3.1.47（2）　注目すべき生息地

(2) 動物（海域）

① 収集資料

事業実施想定区域及びその周囲における海域動物の生息の状況は、表 3.1.57に示す文献及び表 3.1.58その他の資料を収集して把握した。

表 3.1.57（1） 収集した既存資料一覧（海域生物・動物）

文献No.	文献名	調査項目						備考（対象範囲）
		海棲哺乳類	海棲爬虫類	海産魚類	魚卵・稚仔魚	無脊椎動物	動物プランクトン	
1	日本海産魚類目録（2014年3月、山口県水産研究センター研究報告第11号:1-30）			○				新潟県
2	レッドデータブックにいがた-新潟県の保護上重要な野生生物-（2001年3月、新潟県）			○				岩船、北蒲
3	海棲哺乳類ストランディングデータベース（2022年3月時点、国立科学博物館）	○						村上市、胎内市、新発田市、聖籠町
4	新潟海岸の生きもの（2022年3月時点、国土交通省北陸地方整備局信濃川下流河川事務所）					○		新潟海岸
5	新潟県の沿岸・沖合に産するカニ類（2001年5月、CANCER会員連絡誌第10号:25-34）					○		村上市、胎内市、聖籠町
6	新潟県沿岸で採捕された体色異常のキアンコウとヒラメの記録（2019年3月、新潟県水産試験場・水産海洋研究所研究報告第4号:3-11）			○				村上市
7	新潟県下に漂着した海産哺乳類（1990年6月、鯨研通信第378号:1-15）	○						村上市、胎内市、聖籠町
8	新潟県北部沿岸域における底生魚類の分布と底層環境の関係（2009年、新潟県水産試験場・水産海洋研究所研究報告第2号:3-14）			○				新潟東港沖合
9	新発田市環境基本計画（第2次）【平成28年度▸平成37年度】（2016年4月、新発田市）			○				新発田市
10	対馬暖流域におけるウスメバルの生活様式（1989年5月、日本海ブロック試験研究集録第15号:71-79）			○	○			新潟県沿岸
11	漂着混獲動物記録 脊椎動物 魚類（2022年3月時点、新潟市水族館マリンピア日本海）			○				村上市、胎内市、新発田市、聖籠町
12	漂着混獲動物記録 脊椎動物 哺乳類（2022年3月時点、新潟市水族館マリンピア日本海）	○						村上市、胎内市、聖籠町
13	漂着混獲動物記録 脊椎動物 爬虫類（2022年3月時点、新潟市水族館マリンピア日本海）		○					村上市、胎内市、聖籠町
14	漂着混獲動物記録 無脊椎動物（2022年3月時点、新潟市水族館マリンピア日本海）					○		聖籠町
15	風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業（2015年10月、イー・アンド・イーソリューションズ株式会社）	○	○	○	○	○		村上市、胎内市
16	2015年春に新潟県沿岸に出現したコククジラ（2015年7月、日本セトロジー研究25巻:7-16）	○				○		胎内市
17	2018年に新潟県内で漁獲されたワニエソの一般成分と蒲鉾の物性について（2020年1月、新潟県水産試験場・水産海洋研究所研究報告第5号:7-9）			○				岩船

表 3.1.57（2）　収集した既存資料一覧（海域生物・動物）

文献No.	文献名	調査項目						備考（対象範囲）
		海棲哺乳類	海棲爬虫類	海産魚類	魚卵・稚仔魚	無脊椎動物	動物プランクトン	
18	2021年水揚げ情報（2022年3月時点、新潟県）			○		○		岩船
19	2022年水揚げ情報（2022年3月時点、新潟県）			○		○		岩船
20	うみがめニュースレターNo.101（2015年3月、NPO法人ウミガメ協議会）		○					村上市
21	うみがめニュースレターNo.103（2016年1月、NPO法人ウミガメ協議会）		○					胎内市
22	うみがめニュースレターNo.95（2013年3月、NPO法人ウミガメ協議会）		○					胎内市、新発田市
23	うみがめニュースレターNo.99（2014年7月、NPO法人ウミガメ協議会）		○					村上市
24	ストランディングレコードデータ(2022年2月時点、一般財団法人日本鯨類研究所）	○						村上市、胎内市、新発田市
25	にいがたのさかな100選（2022年3月時点、新潟県）			○		○		岩船、北蒲原、三面川、荒川
26	沖縄県屋我地島に漂着したヒメウミガメ（2014年12月、うみがめニュースレターNo.100:P7-P11）		○					胎内市
27	持ち込まれた魚・珍しい魚（2022年3月時点、新潟県）			○		○		村上市、聖籠町
28	日本海のプランクトンについて（1953年日本海洋学会誌、vol.9、no.2:95-102）						○	新潟県沿岸域
29	魚礁における動物プランクトンの分布様式について（1983年、水産土木、vol.19、no.2:21-28）						○	新潟県沿岸域
30	A new species of Pseudodiaptomus (Copepoda: Calanoida) from the coast of Niigata, the Japan Sea.(1983年、Bulletin of Plankton Society of Japan、vol.30 no.1:65-69)						○	新潟県沿岸域
31	富山湾におけるカタクチイワシ仔魚餌料としてのカイアシ類群集の季節変化（1997年、日水研報告、vol47:79-94）						○	新潟県沿岸域
32	Spatial variations in zooplankton community structure along the Japanese coastline in the Japan Sea: Influence of the coastal current.（2018年、Ocean Science、vol.14 no.3:355-369）						○	新潟県沿岸域
33	2005年5月の中部日本海能登半島周辺海域におけるカイアシ類ノープリウスの水平分布（2019年、日本プランクトン学会報、vol.66no.2:60-71）						○	新潟県沿岸域

② 動物の重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定は、各種文献等において確認された種を対象として、表 3.1.58に示す選定基準に基づいて行った。

表 3.1.58 動物の重要な種の選定基準（海域動物）

文献 No.	選定基準	カテゴリー	
Ⅰ	「文化財保護法」（1950 年、法律第 214 号） 「新潟県文化財保護条例」（1973 年、条例第 33 号） 「村上市文化財保護条例」（2008 年、条例第 116 号） 「胎内市文化財保護条例」（2005 年、条例第 108 号） 「新発田市文化財保護条例」（1971 年、条例第 37 号） 「聖籠町文化財保護条例」（1975 年、条例第 20 号）	・特別天然記念物 ・天然記念物 ・新潟県天然記念物 ・村上市天然記念物 ・胎内市天然記念物 ・新発田市天然記念物 ・聖籠町天然記念物	（国特天） （国天） （県天） （村天） （胎天） （新天） （聖天）
Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992 年、法律第 75 号）	・国内希少野生動植物種 ・国際希少野生動植物種	（国内） （国際）
Ⅲ	「環境省レッドリスト 2020」 （2020 年、環境省自然環境局野生生物課）	・絶滅 ・野生絶滅 ・絶滅危惧 I 類 ・絶滅危惧ⅠA 類 ・絶滅危惧ⅠB 類 ・絶滅危惧Ⅱ類 ・準絶滅危惧 ・情報不足 ・絶滅のおそれのある地域個体群	（EX） （EW） （CR+EN） （CR） （EN） （VU） （NT） （DD） （LP）
Ⅳ	「新潟県第 2 次レッドリスト」（2014-2019 年、新潟県）	・絶滅 ・野生絶滅 ・絶滅危惧Ⅰ類 ・絶滅危惧Ⅱ類 ・準絶滅危惧 ・保護に留意すべき地域個体群	（EX） （EW） （EN） （VU） （NT） （LP）
Ⅴ	「海洋生物レッドリスト 2017」（2017 年、環境省）	・絶滅 ・野生絶滅 ・絶滅危惧ⅠA 類 ・絶滅危惧ⅠB 類 ・絶滅危惧Ⅱ類 ・準絶滅危惧 ・情報不足 ・絶滅のおそれのある地域個体群	（EX） （EW） （CR） （EN） （VU） （NT） （DD） （LP）
Ⅵ	「水産資源の希少性」（2017 年、水産庁）	・絶滅 ・野生絶滅 ・絶滅危惧ⅠA 類 ・絶滅危惧ⅠB 類 ・絶滅危惧Ⅱ類 ・準絶滅危惧 ・情報不足 ・絶滅のおそれのある地域個体群	（EX） （EW） （CR） （EN） （VU） （NT） （DD） （LP）
Ⅶ	「新潟県希少野生動植物保護条例」（2022 年、条例第 8 号）	・指定希少野生動植物	（希少）

③　海棲哺乳類

事業実施想定区域及びその周囲に生息が確認された海棲哺乳類は表 3.1.59に示すとおりであり、国際希少野生動植物種のザトウクジラや環境省レッドリストに掲載されているキタオットセイなど2目4科4種が確認されている。また、事業実施想定区域及びその周囲に生息の想定される海棲哺乳類に係る確認種は重要種を含む2目9科23種が確認されている。

表 3.1.59　海棲哺乳類の重要種

No.	目名	科名	種名	文献 No.						重要種の選定基準							分布特性
				3	7	12	15	16	24	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	
1	食肉	アシカ	トド				○					NT					沿岸性
2	クジラ	ナガスクジラ	ザトウクジラ	○		○					国際						外洋性
3		コククジラ	コククジラ				○	○			国際						沿岸性
4		ネズミイルカ	スナメリ	○		○	○				国際						沿岸性
計	2目	4科	4種	2種	0種	2種	3種	1種	0種	0種	3種	1種	0種	0種	0種	0種	-

*1：種名及び順番は「世界哺乳類標準和名リスト」（2018年、日本哺乳類学会）に基づく。
資料：表 3.1.57及び表 3.1.58の出典に基づき作成

表 3.1.60（1）　海棲哺乳類ストランディングデータ

種名	文献No.	発見日	確認場所		
			郡市町村	緯度	経度
キタオットセイ*2	3	1999/4/19	村上市瀬波地先	38° 13′	139° 27′
ゴマフアザラシ	3	1981/12/DD	村上市野潟	–	–
ゴマフアザラシ	3	2002/12/31	北蒲原郡聖籠町次第浜加治川河口	38° 01′	139° 17′
ゴマフアザラシ	12	1995/1/23	中条町藤塚浜	–	–
ワモンアザラシ	3	1973/9/15	村上市瀬波海岸	38° 13′	139° 27′
ミンククジラ	3	1967/2/4	北蒲原郡中条町荒井浜	38° 07′	139° 23′
ミンククジラ	3	1990/9/19	村上市瀬波	38° 14′	139° 27′
ミンククジラ	3	2016/2/5	村上市岩ヶ崎	38° 15′	139° 26′
ミンククジラ	12	1990/9/19	村上市瀬波沖	–	–
ザトウクジラ	3	2015/11/3	胎内市桃崎浜	38° 08′	139° 24′
ザトウクジラ	12	2015/11/3	胎内市桃崎浜	–	–
マイルカ	3	2014/9/6	村上市岩船港	38° 11′	139° 26′
マイルカ	12	2014/9/6	村上市岩船港内	–	–
ハナゴンドウ	3	1998/9/27	村上市瀬波三面川河口	38° 26′	139° 29′
ハナゴンドウ	3	2011/1/8	村上市瀬波	38° 14′	139° 27′
ハナゴンドウ	12	2011/1/10	村上市瀬波海岸	–	–
ハナゴンドウ	12	2014/1/3	村上市瀬波海岸	–	–
ハナゴンドウ	24	2009/12/24	村上市今川字宝屋地先海岸	–	–
カマイルカ	3	1987/2/15	北蒲原郡聖籠町次第浜	38° 01′	139° 16′
カマイルカ	3	2013/5/13	新発田市藤塚浜	–	–
カマイルカ	3	2015/1/25	新発田市藤塚浜	–	–
カマイルカ	3	2015/2/8	北蒲原郡聖籠町東港	38° xx′	139° 14′
カマイルカ	12	2013/5/12	新発田市藤塚浜	–	–
カマイルカ	12	2014/1/1	村上市瀬波新田町	–	–
カマイルカ	12	2019/1/25	胎内市村松浜	–	–
カマイルカ*3	12	2019/4/27	村上市馬下	–	–
カマイルカ	24	2013/5/14	新発田市藤塚浜	–	–
ハシナガイルカ	3	2003/3/2	北蒲原郡中条町荒井浜	38° 07′	139° 23′
ハシナガイルカ	12	2003/3/3	中条町荒井浜	–	–
ハシナガイルカ	24	2003/3/2	北蒲原郡中条町荒井浜	–	–
ハンドウイルカ（バンドウイルカ）*4	3	2008/4/16	新潟市北蒲原郡聖籠町網代亀塚	38° 01′	139° 16′
ハンドウイルカ（バンドウイルカ）*4	12	2008/4/16	北蒲原郡聖籠町亀塚	–	–
ハンドウイルカ（バンドウイルカ）*4	12	2014/1/7	胎内市笹口浜	–	–
ハンドウイルカ（バンドウイルカ）*4	12	2020/1/22	胎内市桃崎浜	–	–
ハンドウイルカ（バンドウイルカ）*4	24	2014/1/8	胎内市笹口浜	–	–
スナメリ	3	2012/6/3	胎内市村松浜	–	–
スナメリ	12	2012/6/3	胎内市村松浜	–	–
ツチクジラ	3	1966/7/10	村上市岩ケ崎	38° xx′	–
ツチクジラ	3	1976/2/4	北蒲原郡中条町荒井浜	38° 07′	139° 23′
ツチクジラ	3	1986/12/22	北蒲原郡中条町中村浜	38° 05′	139° 21′
オウギハクジラ	3	1984/5/10	北蒲原郡中条町笹口浜	38° 05′	139° 22′
オウギハクジラ	3	1988/3/29	村上市岩ヶ崎	38° 15′	139° 27′
オウギハクジラ	3	1992/3/8	北蒲原郡中条町笹口浜	38° 05′	139° 22′
オウギハクジラ	3	2005/3/14	村上市瀬波温泉１地先	38° 13′	139° 27′

表 3.1.60（2）　海棲哺乳類ストランディングデータ

種名	文献No.	発見日	確認場所		
			郡市町村	緯度	経度
オウギハクジラ	3	2005/5/2	村上市野潟 2662-1 地先	38° 16′	139° 27′
オウギハクジラ	3	2005/6/6	北蒲原郡聖籠町網代浜海水浴場	38° xx′	139° 15′
オウギハクジラ	12	1992/3/7	中条町笹口浜	−	−
オウギハクジラ	12	2005/6/6	北蒲原郡聖籠町網代浜	−	−
オウギハクジラ	24	2005/3/14	村上市瀬波温泉 1 地先	−	−
オウギハクジラ	24	2005/5/2	村上市野潟	−	−
オウギハクジラ属*5	3	1996/4/10	北蒲原郡中条町	38° xx′	−
オウギハクジラ属*5	3	1999/2/13	北蒲原郡中条町村松浜	38° 03′	139° 2x′
オウギハクジラ属*5	3	2001/6/9	北蒲原郡紫雲寺町藤塚浜	38° 02′	139° 18′
オウギハクジラ属*6	12	2001/6/9	紫雲寺町藤塚浜	−	−
ハクジラ亜目*7	24	1996/4/10	北蒲原郡中条町	−	−
ハクジラ亜目*7	24	1999/2/13	北蒲原郡中条町村松浜	−	−
ハクジラ亜目*7	24	2001/6/9	北蒲原郡紫雲寺町藤塚浜	−	−

*1：種名は「世界哺乳類標準和名リスト」（2018年、日本哺乳類学会）に基づく。
*2：「キタオットセイ」は、「オットセイ」として記載されている。
*3：「カマイルカ」は、「カマイルカ？」として記載されている。
*4：「ハンドウイルカ（バンドウイルカ）」は、「ハンドウイルカ」として記載されている。
*5：「オウギハクジラ属」は、「種不明オウギハクジラ属」として記載されている。
*6：「オウギハクジラ属」は、「オウギハクジラ属の一種」として記載されている。
*7：「ハクジラ亜目」は、「ハクジラ亜目不明」として記載されている。
資料：表 3.1.57及び表 3.1.58の出典に基づき作成
緯度経度のうち、「-」は該当無し、「DD」、「x」は不明を示す。
文献No.3のみ緯度経度が記載されている場合がある。

④　海産爬虫類

事業実施想定区域及びその周囲に生息が確認された海棲爬虫類は表 3.1.61に示すとおりであり、環境省レッドリストに掲載されているアカウミガメやタイマイなど2目2科5種が確認されている。また、事業実施想定区域及びその周囲に生息の想定される海産爬虫類に係る確認種は重要種を含む2目3科8種が確認されている。

表 3.1.61　海棲爬虫類の重要種

No.	目名	科名	種名	文献 No.							重要種の選定基準						
				13	15	20	21	22	23	26	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
1	カメ	ウミガメ	アオウミガメ	○	○	○		○					VU				
2			アカウミガメ	○	○		○	○	○				EN				
3			タイマイ	○	○								EN				
4			オサガメ	○	○							国際					
5	有鱗	コブラ	エラブウミヘビ		○								VU				
計	2目	2科	5種	4種	5種	1種	1種	2種	1種	0種	0種	1種	4種	0種	0種	0種	0種

*1：種名及び順番は「日本産爬虫両生類標準和名リスト」　（2022年、日本爬虫両棲類学会）に基づく。
資料：表 3.1.57及び表 3.1.58の出典に基づき作成

⑤　海産魚類

事業実施想定区域及びその周囲に生息の想定される海産魚類に係る重要種は表 3.1.62に示すとおりであり、海洋生物レッドリストに掲載されているカスザメやタケノコメバルなど3綱22目36科59種の重要種が確認されている。また、事業実施想定区域及びその周囲に生息の想定される海産魚類に係る確認種は重要種を含む3綱41目196科672種が確認されている。

表 3.1.62（1）　海産魚類の重要種

No.	綱名	目名	科名	種名	文献 No.													重要種の選定基準						
					1	2	6	8	9	10	11	15	17	18	19	25	27	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
1	ヌタウナギ	ヌタウナギ	ヌタウナギ	クロヌタウナギ	○							○										NT		
2		ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	カワヤツメ	○							○								VU	VU			
3	軟骨魚	ギンザメ	ギンザメ	ギンザメ	○							○										DD		
4				ココノホシギンザメ	○							○										DD		
5		ネコザメ	ネコザメ	ネコザメ	○							○										DD		
6		テンジクザメ	トラフザメ	トラフザメ	○							○										DD		
7		メジロザメ	トラザメ	ナヌカザメ	○							○										DD		
8			ドチザメ	シロザメ	○							○										NT		
9				ホシザメ	○							○										NT		
10			メジロザメ	クロヘリメジロザメ	○							○										DD		
11				ハナザメ	○							○										DD		
12				メジロザメ*2	○							○										DD		

表 3.1.62（2）　海産魚類の重要種

No.	綱名	目名	科名	種名	文献 No.													重要種の選定基準						
					1	2	6	8	9	10	11	15	17	18	19	25	27	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
13	軟骨魚	カグラザメ	カグラザメ	エドアブラザメ	○							○										DD		
14				カグラザメ	○							○										DD		
15		ツノザメ	ツノザメ	フトツノザメ	○							○										NT		
16		カスザメ	カスザメ	カスザメ	○							○										NT		
17				コロザメ	○							○										DD		
18		ノコギリザメ	ノコギリザメ	ノコギリザメ	○							○										DD		
19		トンガリサカタザメ	シノノメサカタザメ	シノノメサカタザメ	○							○										D D		
20		サカタザメ	サカタザメ	コモンサカタザメ	○							○										NT		
21			ウチワザメ	ウチワザメ	○							○										NT		
22		ガンギエイ	ガンギエイ	メガネカスベ	○							○										NT		
23				ガンギエイ	○							○										NT		
24				モヨウカスベ	○							○										NT		
25				コモンカスベ	○							○										DD		
26		ガンギエイ	ヒトツビレカスベ	ドブカスベ	○							○										NT		
27		トビエイ	ツバクロエイ	ツバクロエイ	○							○										DD		
28			トビエイ	トビエイ	○							○										DD		
29			マダラトビエイ	ナルトビエイ	○						○	○										NT		
30				マダラトビエイ	○							○										DD		
31			イトマキエイ	イトマキエイ	○							○										DD		
32				ヒメイトマキエイ	○							○										DD		
33	硬骨魚	チョウザメ	チョウザメ	チョウザメ	○							○								EX				
34		ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	○	○						○								EN	VU			
35		サケ	キュウリウオ	ワカサギ		○															NT			
36			サケ	サクラマス・ヤマメ*3	○							○		○						NT	NT			
37				オショロコマ	○							○								VU				
38		トゲウオ	クダヤガラ	クダヤガラ	○							○										NT		
39			トゲウオ	ニホンイトヨ*4	○						○	○								LP	EN			
40		ダツ	メダカ	キタノメダカ	○							○								VU	NT			

表 3.1.62（3）　海産魚類の重要種

No.	綱名	目名	科名	種名	文献 No.													重要種の選定基準						
					1	2	6	8	9	10	11	15	17	18	19	25	27	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
41	硬骨魚	ダツ	サヨリ	サヨリトビウオ	○							○										NT		
42		スズキ	メバル	バラメヌケ	○							○										NT		
43				アコウダイ	○							○										DD		
44				タケノコメバル	○							○										NT		
45			カジカ	トゲカジカ	○							○										DD		
46				カマキリ（アユカケ）		○														VU	NT			
47			トクビレ	トクビレ	○							○										DD		
48			ダンゴウオ	ホテイウオ	○							○										DD		
49			ハゼ	アカハゼ	○			○				○										NT		
50				コモチジャコ	○							○										NT		
51				ビリンゴ	○	○						○									VU			
52				ジュズカケハゼ*5	○							○								NT				
53				シロウオ	○	○			○			○								VU	VU			
54				イドミミズハゼ	○							○								NT				
55				ゴマハゼ	○							○								VU				
56				アカウオ*6	○							○										NT		
57				ゴクラクハゼ	○							○									LP			
58				シラヌイハゼ	○							○								NT				
59		カレイ	カレイ	マツカワ	○							○										DD		
60				ホシガレイ	○							○										NT		
61		フグ	フグ	マフグ	○							○				○						NT		
計	3綱	22目	36科	61種	59種	5種	0種	1種	1種	0種	2種	59種	0種	1種	0種	1種	0種	0種	0種	13種	11種	45種	0種	0種

*1：種名及び順番は種名及び配列は原則として、「日本産魚類全種目録　これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名」（2022年4月、本村浩之）に基づく。
*2：Ⅴは、「メジロザメ（ヤジブカ)」として記載されている。
*3：Ⅲ、Ⅳは、「サクラマス（ヤマメ）」として記載されている。
*4：Ⅲは、「本州のニホンイトヨ」として記載されている。
*5：Ⅳは、「ジュズカケハゼ広域分布種」として記載されている。
*6：Ⅴは、アカウオ（wakae型）/アカウオ（microcephalus 型）で記載
資料：表 3.1.57及び表 3.1.58の出典に基づき作成

⑥　魚卵・稚仔魚

事業実施想定区域及びその周囲に生息が確認された魚卵・稚仔魚は表 3.1.63に示すとおりであり、コノシロやキアンコウなど1綱11目34科43種が確認されている。

事業実施想定区域及びその周囲に生息の想定される魚卵・稚仔魚の重要種は確認されていない。

表 3.1.63（1）　魚卵・稚仔魚の確認種

No.	綱名	目名	科名	種名	文献 No.		重要種の選定基準						
					10	15	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
1	硬骨魚	ウナギ	-	ウナギ目		○							
2		ニシン	ニシン	コノシロ		○							
3				マイワシ		○							
4			カタクチイワシ	カタクチイワシ		○							
5		コイ	コイ	コイ科		○							
6		ナマズ	ギギ	ギギ		○							
7		サケ	アユ	アユ		○							
8		ヒメ	ヒメ	ヒメ		○							
9			エソ	トカゲエソ		○							
10		アンコウ	アンコウ	キアンコウ		○							
11		ボラ	ボラ	ボラ科		○							
12		スズキ	メバル	アカメバル		○							
13				ムラソイ		○							
14				クロソイ	○								
15				ウスメバル	○								
16				カサゴ		○							
17			オニオコゼ	オニオコゼ		○							
18				ヒメオコゼ		○							
-				オニオコゼ科		●							
19			ホウボウ	ホウボウ科		○							
20			コチ	マゴチ		○							
21			アイナメ	アイナメ属		○							
22			カジカ	カジカ科		○							
23			スズキ	スズキ属		○							
24			テンジクダイ	テンジクダイ科		○							
25			アジ	アジ科		○							
26			ヒイラギ	ヒイラギ		○							
-			ヒイラギ	ヒイラギ属		●							
27			タイ	マダイ		○							
28				ヘダイ亜科		○							
29			キス	シロギス		○							
30			ヒメジ	ヒメジ		○							
31			タウエガジ	タウエガジ科		○							
32			ニシキギンポ	タケギンポ		○							
33			トラギス	トラギス科		○							
34			ミシマオコゼ	ミシマオコゼ科		○							
35			ヘビギンポ	ヘビギンポ		○							
36			イソギンポ	ナベカ属		○							
-				イソギンポ科		●							
37			ネズッポ	ネズッポ科		○							
38			ハゼ	ハゼ科		○							

表 3.1.63（2）　魚卵・稚仔魚の確認種

No.	綱名	目名	科名	種名	文献 No.		重要種の選定基準						
					10	15	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
39	硬骨魚	カレイ	ヒラメ	ヒラメ		○							
40			カレイ	メイタガレイ属		○							
41				マガレイ		○							
-				カレイ科		●							
42			ウシノシタ	ウシノシタ科		○							
43		フグ	カワハギ	アミメハギ		○							
-				カワハギ科		●							
計	1 綱	11 目	34 科	43 種	2 種	41 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種

*1：種名及び配列は原則として、「日本産魚類全種目録　これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名」（2022年4月、本村浩之）に基づく。
*2：集計対象外の種については、「●」として掲載した。
資料：表 3.1.57及び表 3.1.58の出典に基づき作成

⑦　海産底生生物

事業実施想定区域及びその周囲に生息の想定される海産底生生物に係る重要種は表3.1.64に示すとおりであり、環境省レッドリストに掲載されているアサヒキヌタレガイやバラフマテガイの2門3綱5目9科11種の重要種が確認されている。また、事業実施想定区域及びその周囲に生息の想定される海産底生動物に係る確認種は重要種を含む15門29綱69目204科347種が確認されている。

表 3.1.64　海産底生生物の重要種

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	文献 No.									重要種の選定基準						
						4	5	14	15	16	18	19	25	27	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
1	軟体動物	腹足	新生腹足	ムシロガイ	ムシロガイ				○								NT				
2				バイ	バイ				○	○							NT				
3				マクラガイ	マクラガイ				○								NT				
4			汎有肺	イソチドリ	ヒメゴウナ				○								NT				
5		二枚貝	キヌタレガイ	キヌタレガイ	アサヒキヌタレガイ				○								VU				
6			マルスダレガイ	シジミ	ヤマトシジミ				○								NT				
7				ニッコウガイ	サビシラトリガイ				○								NT				
8					オオモモノハナ				○								NT				
9					モモノハナガイ				○								NT				
10				マテガイ	バラフマテガイ				○								NT				
11	節足動物	軟甲	エビ	モクズガニ	ヨコナガモドキ				○										NT		
計	2 門	3 綱	5 目	9 科	11 種	0 種	0 種	0 種	11 種	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	10 種	0 種	1 種	0 種	0 種

*1：種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト　令和3年度生物リスト」（2021年、河川環境データベース　国土交通省水情報国土データ管理センター）に基づく。
*2：Ⅲは、「サビシラトリ」として記載されている。
*3：Ⅲは、「モモノハナ（エドザクラ）」として記載されている。
*4：Ⅲは、「バラフマテ」として記載されている。
※文献No.は、表 3.1.57の文献No.
資料：表 3.1.57及び表 3.1.58の出典に基づき作成

⑧ 動物プランクトン

事業実施想定区域及びその周囲に生息が確認された動物プランクトンは表 3.1.65に示すとおりであり、Euphausia pacificaなど5門7綱13目26科48種が確認されている。

事業実施想定区域及びその周囲に生息の想定される動物プランクトンの重要種は確認されていない。

表 3.1.65（1） 動物プランクトンの確認種

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	文献 No.						重要種の選定基準						
						28	29	30	31	32	33	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
1	放散虫	-	-	-	Radiolaria	○												
2	刺胞動物	ヒドロ虫	花クラゲ	-	Anthomedusae		○											
3			管クラゲ（鐘泳）	フタツクラゲ	*Diphyes* sp.		○											
4	節足動物	鰓脚	枝角	シダ	*Penilia avirostris*		○											
5				ウミオオメミジンコ	*Evadne nordmanni*		○			○								
6					*Podon* sp.		○											
7		顎脚（橈脚）	カラヌス	アカルチア	*Acartia danae*				○									
8					*Acartia omorii*		○											
9				カラヌス	*Calanus sinicus*				○	○								
-					*Calanus* spp.		○		●									
10					*Canthocalanus pauper*				○									
11					*Mesocalanus tenuicornis*				○									
12					*Nannocalanus minor*				○									
13				カンダシア	*Candacia bipinnata*				○									
14				セントロパジェス	*Centropages bradyi*				○									
15					*Centropages furcatus*				○									
-					*Centropages* sp.		○											
16				クラウソカラヌス	*Clausocalanus minor*				○									
17					*Clausocalanus pergens*		○		○									
-					*Clausocalanus* spp.						○							
18					*Ctenocalanus vanus*				○	○								
19					*Pseudocalanus newmani*				○	○								
-					*Pseudocalanus* spp.						○							
20				ユウカラヌス	*Eucalanus* sp.				○									
21				ルシクチア	*Lucicutia flavicornis*				○									
22				メトリディア	*Metridia pacifica*				○									
23				パラカラヌス	*Acrocalanus gracilis*				○									
24					*Paracalanus aculeatus*				○									
25					*Paracalanus parvus*		○		○	○								
-					*Paracalanus* sp.						○							
26				プセウドディアプトムス	*Pseudodiaptomus nihonkaiensis*			○										
27				テモラ	*Temora discaudata*				○									
28			キクロプス	オイトナ	*Oithona atlantica*				○	○	○							
29					*Oithona nana*				○		○							

表 3.1.65（2）　動物プランクトンの確認種

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	文献 No.						重要種の選定基準						
						28	29	30	31	32	33	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
30	節足動物	顎脚（橈脚）	キクロプス	オイトナ	*Oithona plumifera*		○		○	○	○							
31					*Oithona similis*	○			○		○							
-					*Oithona* sp.		●		●									
32			ハルパクチクス	フネガタソコミジンコ	*Microsetella norvegica*						○							
33					*Microsetella rosea*	○												
-					*Microsetella* sp.		○											
34				カワリソコミジンコ	*Euterpina acutifrons*		○											
35			ポエキロストム	コリケウス	*Corycaeus affinis*					○								
-					*Corycaeus* sp.		○		○									
36				オンケア	*Oncaea media*	○												
37					*Oncaea venusta*				○									
-					*Oncaea* sp.		○											
38				サフィリナ	*Sapphirina* sp.		○											
39		軟甲	アミ	アミ	*Proneomysis fasca*		○											
40				-	Mysidacea		○											
41			端脚	-	Amphipoda		○											
42			オキアミ	オキアミ	*Euphausia pacifica*					○								
43	毛顎動物	現生矢虫	膜筋	イソヤムシ	*Spadella cephaloptera*		○											
44				ヤムシ	*Sagitta* sp.		○											
45					*Chaetognatha*	○												
46	脊索動物（尾索動物）	タリア（ウミタル）	ウミタル	ウミタル	*Doliolumg. f. tritonis*		○											
47		尾虫	尾虫	オタマボヤ	*Oikopleura longicauda*					○								
48					*Oikopleura parva*		○											
-					*Oikopleura* spp.	○	●											
計	5 門	7 綱	13 目	26 科	48 種	6 種	23 種	1 種	25 種	10 種	8 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種

*1：種名及び配列は「日本産海洋プランクトン検索図説」（1997年、東海大学出版会）に基づく。
*2：集計対象外の種については、「●」として掲載した。
資料：表 3.1.57及び表 3.1.58の出典に基づき作成